

バスケットボール
真の日本一が決まる運命の七日間。

新



天皇杯

EMPEROR'S CUP BASKETBALL 2025-26
FINAL ROUND

2026.1.6 tue - 1.12 mon

国立代々木競技場第一体育館・第二体育館

皇后杯



EMPRESS'S CUP BASKETBALL 2025-26
FINAL ROUND

2026.1.5 mon - 1.11 sun

国立代々木競技場第一体育館・第二体育館・駒沢体育館

OFFICIAL PROGRAM

■主催 / 主管: 公益財団法人日本バスケットボール協会 ■共催: 共同通信社

協賛



街の真ん中にスポーツがある。

スポーツが街を動かす

エネルギーになっている。

ここは LaLa arena TOKYO-BAY。スポーツの大会やライブイベントが行われる大型アリーナです。なぜ街の真ん中にアリーナが？それは三井不動産が街づくりにスポーツの力を活かしているから。スポーツの楽しさや感動をもっと日常的に味わってもらいたい。そして、スポーツをする人、観る人、応援する人のつながりを生み出して街をもっと盛り上げていきたい。スポーツのワクワクを街のエネルギーに変えているんです。スポーツで街が一つになるなんて、ちょっと素敵じゃないですか？



さあ、街から未来をかえよう

**BE THE
CHANGE**


三井不動産
MITSUI FUDOSAN


AKATSUKI
JAPAN

JBAオフィシャル街づくりパートナー



公益財団法人日本バスケットボール協会

会 長

島田 慎二

2026年の新春を迎え、全国のバスケットボールファミリーの皆様、明けましておめでとうございます。

このたび、「第101回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会 ファイナルラウンド」を1月6日(火)～12日(月・祝)の期間、国立代々木競技場第一体育館ならびに第二体育館において盛大に開催できますことを大変うれしく思います。

天皇杯の名を冠する日本最高権威の本大会は昨年、第100回の大きな節目を迎えました。そして大会方式を一部変更し、新たな歴史の第一歩となる今大会では、都道府県およびブロックラウンドを勝ち抜いた各地区の代表に加え、B.LEAGUEや社会人連盟、全日本大学連盟からそれぞれ推薦された精鋭、計24チームが日本一の座をかけてしのぎを削ります。

それぞれのチームの名誉をかけた、またベテランから若手までのすべての選手がその実力をぶつけ合う、ファンの皆様が一瞬たりとも目を離せなくなるような熱く魅力的な戦いを期待しています。ファンの皆様におかれましては、会場で直接、あるいはテレビやインターネット配信を通じて、熱戦の数々を存分にお楽しみください。

当協会は「バスケで日本を元気に」を理念に掲げ、それぞれのバスケットボールとの関わりを起点に、仲間や地域の皆様とともに目指す未来に向けた取り組みを行っていきたいと考えています。年齢や性別、カテゴリー等の垣根を越えてバスケットボールファミリーが一丸となり、一人ひとりの力を“ONE Basketball”の大きな想いへとつなげ、ともに未来を切り拓いていきましょう。

大会後にはB.LEAGUEのシーズンが佳境に向かいます。また男子日本代表チームは本年2月と7月に、2028年に開催予定のロサンゼルス・オリンピックへと続くFIBAワールドカップ2027アジア地区予選の1次ラウンドを戦います。より多くの皆様に選手やチームを応援していただき、日本のバスケットボール界がもっともっと盛り上がっていくことを願っています。

結びに、今大会の開催にあたりご尽力いただきます方々、またこれまでの歴史のなかで本大会に関わってくださったすべての皆様方に敬意を表しますとともに、今大会の成功を祈念して、ごあいさつといたします。



molten[®]
feel the emotion

スポーツの報酬は感情だ。
動き出せ。つながり続けよう。感情に向き合え。

◎ 全日本選手権大会について ◎

1900年前後、日本にバスケットボールがアメリカより伝えられて以来、YMCAを中心に日本全国で試合が行われるようになった。その結果、1921(大正10)年11月、大日本体育協会(現・日本スポーツ協会)により全日本選手権大会が主催され、東京大学農学部駒場グラウンドで2日間にわたり、記念すべき第1回の大会が開催された。その後、大日本バスケットボール協会(現・日本バスケットボール協会)が1930(昭和5)年に発足。1931(昭和6)年の第10回大会からは日本バスケットボール協会主催となり、女子の日本選手権も併せて開催し、現在に至る。

初回大会こそ各地のYMCAが参加チームだった本大会だが、第2回大会以降はジュニア部門も併せて行い、旧制中学、大学チームも参加。各ブロックの代表も参加し、第二次世界大戦後は実業団チームも台頭。大会名称も1947(昭和22)年から全日本総合選手権大会に改めた。以後、トップリーグやクラブなどの社会人チームが参加し、日本最強のチームを決定する大会となった。

そして2017(平成29)年、「全日本バスケットボール選手権大会」と大会名称を改めるとともに、大会方式を変更。スポーツ文化としてのバスケットボールの価値向上、そして日本バスケットボール界の最高権威である「天皇杯・皇后杯」の大会価値向上を目的とし、都道府県レベルからの一貫したトーナメント制が実現し、名実ともに「真の日本一」を争う大会として生まれ変わった。

◎ 天皇杯・皇后杯とは ◎

天皇杯は、国民によく普及しているスポーツの全国大会に対し、スポーツの振興のために宮内庁より下賜され、皇后杯も同条件を満たし、なおかつ参加者が女性の場合に限り下賜されるもの。

本大会に天皇杯・皇后杯が下賜されたのは1948(昭和23)年のことだった。

戦前から毎年開催されていた全日本選手権大会も、第二次世界大戦のあおりを受けて1942(昭和17)年より、1943(昭和18)年の男子第21回・女子第12回大会を除き、1946(昭和21)年までは開催中止となった。

しかし、戦後間もない1947(昭和22)年、バスケットボールを通じて社会復興に貢献し、やがては国際社会に復帰することと、さらなるバスケットボールの国内の拡充を目標に掲げ、本大会は全日本総合選手権大会として復活開催を果たした。その志のシンボルとして天皇・皇后両杯を切望した結果、1948(昭和23)年に両杯が日本バスケットボール協会に下賜され、同年に開催された男子第24回・女子第15回全日本総合選手権大会以降、大会の優勝チームに授与されることとなった。

なお、天皇杯・皇后杯はスポーツ団体としては2025(令和7)年12月末現在で26団体に下賜されており、そのうち日本スポーツ協会、日本サッカー協会など13団体が両杯を下賜されている。また、2018(平成30)年には、日本車いすバスケットボール連盟にも両杯が下賜された。

バスケットボールは単独競技として最初に天皇杯、皇后杯をそろって下賜された団体であり、それゆえに本大会は真の日本一を競い合う、非常に由緒ある大会となっている。



天皇杯



皇后杯

三井住友信託銀行は、
バスケットボール日本代表を応援しています。



**AKATSUKI
JAPAN**



©シンジル & タクセル



©日本バスケットボール協会

天皇杯 PREVIEW

EMPEROR'S CUP BASKETBALL 2025-26

改編された天皇杯。Bリーグ勢を中心に 真の日本一を目指して24チームが激突

バスケットボール日本一の座を懸けた「第101回天皇杯 全日本選手権」ファイナルラウンドが、1月6日から代々木競技場で幕を開ける。今年度から男女同時の集中開催へとリニューアルされ、Bリーグ勢や大学・社会人の王者、地方ブロック代表の厳選された24チームが激突する。昨季王者・琉球を筆頭に、激戦必至のトーナメント。Bリーグ勢がその壁の高さを見せつけるのか、あるいは下部カテゴリーの雄が下克上を起こすのか。一発勝負のトーナメントから目が離せない。

全国9ブロック代表、社会人、大学生 トップリーグの推薦チームが出場

今年で101回目を迎える「天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会」のファイナルラウンドが1月6～12日、国立代々木競技場第一体育館、第二体育館で行われる。

天皇杯は都道府県レベルから国内トップリーグまで、幅広いカテゴリーに所属する高校生以上のチームが参加し、日本一の座を競う国内最高峰の大会。2017年度以降は天皇杯と皇后杯に分かれて行われてきたが、今年度から男女同時の集中開催として復活。また、大会レギュレーションも改編され、ファーストラウンド（都道府県ラウンド）、セカンドラウンド（ブロックラウンド）、ファイナルラウンドの3ラウンド制で実施されることになった。

ファイナルラウンドに進出するのは24チーム。セカンドラウ



比江島慎 (宇都宮)



岸本隆一 (琉球)

ンドを勝ち抜いた各ブロック代表9チームに加え、推薦枠では社会人1チーム、大学1チーム、国内トップリーグから13チーム（B1から8枠、B2から4枠、B3から1枠）が出場する。

各ブロック代表として出場権を獲得したのは、北海道はCamellia、東北は山形クベラ。関東代表の白鷗大学は12月に開催された「全日本大学バスケットボール選手権大会」（インカレ）で2年ぶり3度目の頂点に輝いた覇者である。北信越はREBORN、東海はリントツ、近畿はONLYS wakayama、中国は環太平洋大学、四国はクリッパークラブ、九州からはインカレで初の3位へと躍進した日本経済大学が出場。

推薦枠では、社会人枠は前シーズンの「高松宮記念杯全日本社会人バスケットボールプレミアムチャンピオンシップ」優勝チームのJR東日本秋田PECKERSが出場。大学枠は、前年度のインカレ優勝チームが所属する地区の当該年度の選手権大会（春季大会）優勝チームが権利を得るため、関東大学選手権大会優勝の日本体



吉井裕鷹 (三遠)



渡邊雄太 (千葉J)



ライオン・ロシター
(A東京)



岡田侑大 (島根)

育大学が出場権を獲得。

また、トップリーグ枠は前シーズンの成績をもとに選出。B1枠からは昨季のチャンピオンシップ (CS) に出場した宇都宮ブレックス、琉球ゴールデンキングス、三遠ネオフェニックス、千葉ジェッツ、アルバルク東京、島根スサノオマジック、群馬クレインサンダーズ、シーホース三河の8チームが出場権を得ている。

B2枠からは今季よりB1に昇格したアルティéry千葉と富山グラウジーズに加え、信州ブレイブウォリアーズ、ライジングゼフ

アー福岡が出場。B3枠からは、昨季の優勝チームでB2に昇格した横浜エクセレンスが出場する。以上、24チームが改編された天皇杯に出場する顔ぶれだ。

琉球の連覇なるか。宇都宮、千葉Jら B上位勢、あるいはダークホースが暴れるか

昨年度は琉球ゴールデンキングスとアルバルク東京の決勝となり、琉球ゴールデンキングスが決勝進出3度目にして初の栄冠を



辻直人 (群馬)



西田優大 (三河)



黒川虎徹
(A千葉)



岡田雄三 (富山)



土家大輝
(信州)



村上駿斗
(福岡)

勝ち取った。今年度は昨シーズンのCS進出チームが一発勝負のトーナメントで争うだけに、激戦が予想される。

出場チームの中でBリーグの勝率が一番高いのは千葉ジェッツで19勝4敗(全体3位、2025年12月15日現在、以下同)。富樫勇樹、渡邊雄太、原修太ら日本代表選手を擁して攻防ともに安定した戦いを展開している。以下、18勝5敗でD.J.ニュービルと比江島慎が軸の宇都宮ブレックス、16勝7敗で同率のシーホース三河、琉球ゴールデンキングス、群馬クレインサンダーズが続く。このうち、群馬クレインサンダーズを除いた4チームが右側のトーナメントに入っているため、順当にいけば準決勝は熱きバトルとなるだろう。

1回戦では関東代表の白鷗大学と社会人代表のJR東日本秋田PECKERSが千葉ジェッツとの対戦をかけて争う。社会人王者と大学チャンピオンの勝者がBリーグに挑む2回戦は注目のカードだ。

左側のトーナメントは、今季のBリーグで奮闘中の群馬クレインサンダーズを筆頭に、13勝10敗のアルバルク東京と島根サノオマジック、10勝13敗の三遠ネオフェニックスらダークホースがそろった。

昨季Bリーグで準決勝に進出した三遠ネオフェニックスは、今季は負傷者が出て苦戦を強いられているが、千葉ジェッツ時代に天皇杯3連覇に導いた大野篤史ヘッドコーチが指揮を執るだけに、天皇杯を知り尽くす指揮官の采配に注目。ここ4シーズンで3度のCS進出を果たしている島根サノオマジックは、天皇杯ファイナルラウンドへの登場は初めてとあって、虎視眈々と上位進出を狙っているだろう。

右側のトーナメントでは、B2からB1に昇格した富山グラウジーズ(8勝15敗)、アルティール千葉(6勝17敗)の奮闘にも期待がかかる。Bリーグ勢を中心に、一発勝負の熱い戦いに期待したい。

第101回 天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会 ファイナルラウンド出場チーム

| | | | |
|---------------|-------|--|-----------------|
| トップリーグ 推薦枠 | B1 1位 | | 宇都宮ブレックス |
| | B1 2位 | | 琉球ゴールデンキングス |
| | B1 3位 | | 三遠ネオフェニックス |
| | B1 4位 | | 千葉ジェッツ |
| | B1 5位 | | アルバルク東京 |
| | B1 6位 | | 島根サノオマジック |
| | B1 7位 | | 群馬クレインサンダーズ |
| | B1 8位 | | シーホース三河 |
| | B2 1位 | | アルティール千葉 |
| | B2 2位 | | 富山グラウジーズ |
| | B2 3位 | | 信州ブレイブウォリアーズ |
| | B2 4位 | | ライジングゼファー福岡 |
| | B3 1位 | | 横浜エクセレンス |
| 社会人推薦枠 | 1位 | | JR東日本秋田PECKERS |
| 大学推薦枠 | 1位 | | 日本体育大学 |
| ブロック 代表枠 | 北海道 | | Camellia |
| | 東北 | | 山形クベラ |
| | 関東 | | 白鷗大学 |
| | 北信越 | | REBORN |
| | 東海 | | リントツ |
| | 近畿 | | ONELYS wakayama |
| | 中国 | | 環太平洋大学 |
| | 四国 | | クリッパークラブ |
| | 九州 | | 日本経済大学 |

●トップリーグ推薦枠…前シーズンの成績を基にB1リーグに8枠、B2リーグに4枠、B3リーグに1枠。
●社会人推薦枠…前シーズンの高松宮記念杯 全日本社会人バスケットボールプレミアムチャンピオンシップ最上位に1枠
●大学推薦枠…前年度の全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)優勝チームが所属する地区の、当該年度の選手権大会(春季大会)最上位に1枠
●ブロック代表枠…原則、当該年度の11月までにブロックラウンド(9ブロック)を開催し、各ブロックに1枠ずつ

バスケで日本を元気に！ JAPAN BASKETBALL STANDARD



「JAPAN BASKETBALL STANDARD」は、日本のバスケットボールの未来を輝かせるために、バスケットボールに関わるすべての人が「バスケで日本を元気に!」というひとつの理念にむかい、ひとつのチームとして持つべき「志」、目指すべき「目標」、行うべき「行動」を示したものです。日本バスケットボール協会が設立100周年を迎える2030年にむけてビジョンを描き、目指すべき姿を掲げています。



バスケ JBS



SPORTS

【競技と組織】バスケが日本スポーツをリードするにふさわしい競技であり続けるために「国際競争力の向上」や「競技・事業環境の進化と適応」、「クリーンな組織体制の強化」を進める。

CULTURE

【文化】バスケが文化として日本全体に根付くことで、「する」「観る」「携わる」「語る」「育む」あらゆる人々にとって身近な存在であり続け、形成される無数のコミュニティで、すべての人の毎日を彩る。

SOCIETY

【社会】バスケが地域や産業活性化に必要な不可欠なインフラになることで、これからの社会に受け入れられ、未来に向けた持続可能で豊かな社会を実現する。

JAPAN BASKETBALL STANDARD 2025

「バスケで日本を元気に!」これは、どんなに時代が移り変わっても、決してふれることのない理念であり、原点です。しかし、2016年にJBSを策定してから10年が経とうとする今、「バスケで日本を元気に!」が果たす役割、求められる役割は時代の変化とともに多様化しています。

JBS2025では、「バスケで日本を元気に!」の理念を具現化し、その広がりを正しく捉え、バスケットボール界が果たすべき責任とその価値を再確認し、未来へつなげるための新たなスタンダードとして、『SPORTS:競技と組織』『CULTURE:文化』『SOCIETY:社会』の3つの領域を設定し、それぞれのビジョンを策定しました。

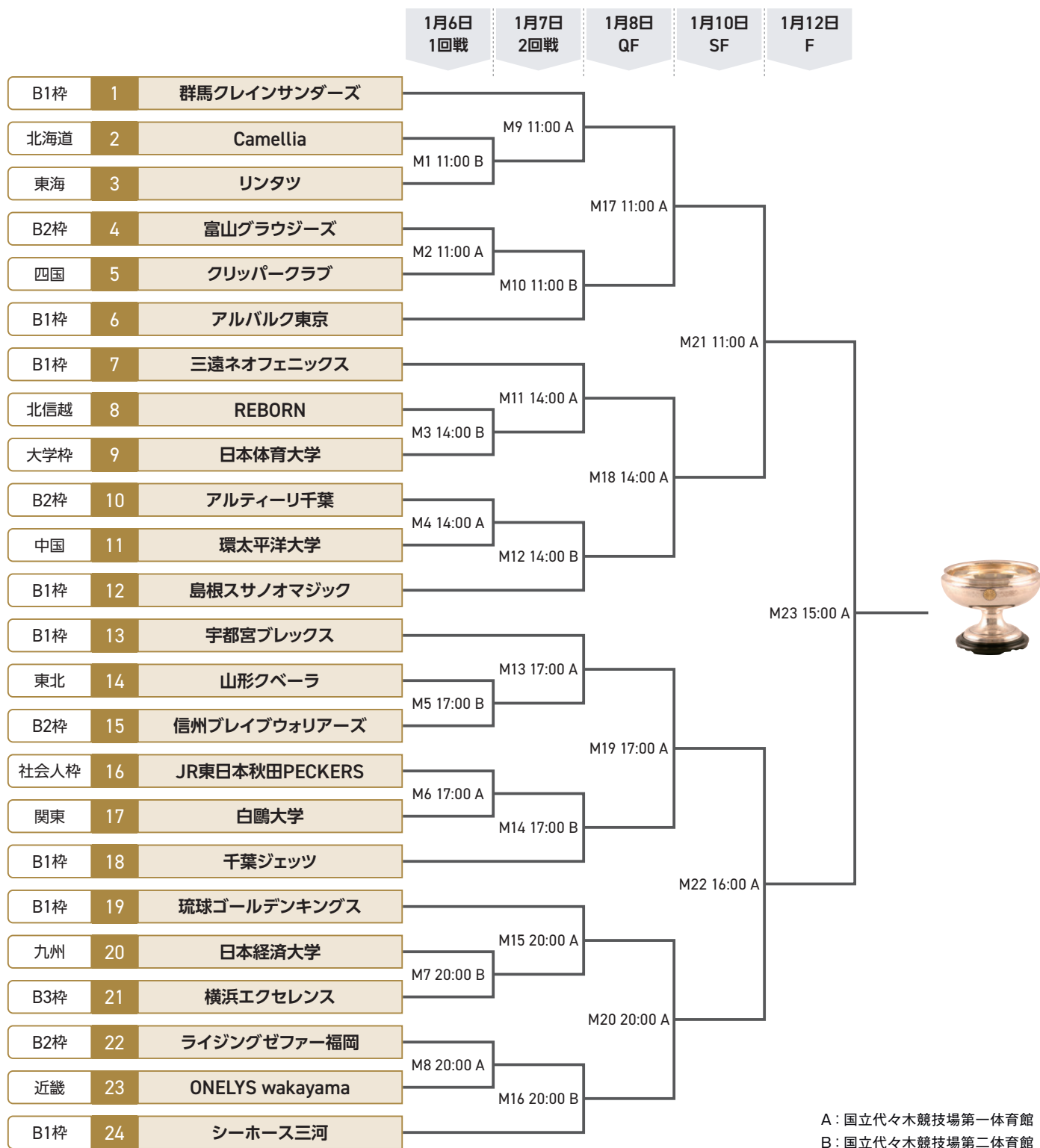
また、それぞれの領域に共通する概念として、『DIVERSITY & INCLUSION (多様性と包括)』『COMPLIANCE & INTEGRITY (法令順守と誠実さ)』『DIGITAL TRANSFORMATION (デジタル変革)』を掲げています。

JBS2025に描いた未来を現実のものとし、「バスケで日本を元気に!」を実現するために、JBAは、B.LEAGUE、W.LEAGUE、都道府県協会、各種連盟、パートナー、ファンや地域の方々など、すべてのバスケットボールファミリーの皆さまとともに、より良い日本のバスケットボールの未来を創り上げていきます。



バスケで 日本を元気に!!

FINAL ROUND



■ 天皇杯ファイナルラウンド テレビ放送・インターネット動画配信予定

○放送予定

2026年1月10日(土)

準決勝 2試合目

NHK BS 16:00~ 生中継

2026年1月12日(月)

NHK Eテレ 15:00~ 生中継

※NHK ONEでも同時・見逃し配信



○配信予定

バスケットLIVE

ファイナルラウンド全試合

ライブ配信(見逃し配信あり)





群馬クレインサンダーズ

B1リーグ 7位

天皇杯最高成績

準々決勝進出
(2023年度)



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨季、B1で初のチャンピオンシップ進出を果たし、今大会の推薦枠を獲得。過去の最高成績は2023年のベスト8で、今大会はその上を目指す挑戦となる。チームの軸となるのは得点、リバウンド、アシストでチームのスタッツをたたき出すケリー・ブラックシア・ジュニア。アウトサイドでは高確率の3ポイントを主体に、藤井祐真、辻直人、細川一輝、中村拓人らが日替わりで活躍し、チーム力を積み上げている。Bリーグの順位は16勝7敗で東地区4位。1試合平均得点は84.1点（4位）、3ポイント成功率36.4%（1位）、3ポイント成功数11.3本（2位）と長距離砲で試合を優位に運ぶ。一方、平均失点も74.9点（2位）とディフェンス力もあり、今大会の台風の目となりそうな存在。

0 PG/SG

藤井 祐真
フジイ ユウマ

身長 **178** cm
生年月日 1991/12/23
出身校 拓殖大学



1 PG/SG

コー・フリッピン

身長 **188** cm
生年月日 1996/5/20
出身校 ドエイン大学



6 PG

中村 拓人
ナカムラ タクト

身長 **184** cm
生年月日 2001/3/3
出身校 大東文化大学



8 PF/C

ケリー・ブラックシア・ジュニア

身長 **208** cm
生年月日 1997/1/28
出身校 バージニア 工科大学



9 SG

辻 直人
ツジ ナオト

身長 **185** cm
生年月日 1989/9/8
出身校 青山学院大学



14 SF

佐藤 誠人
サトウ マコト

身長 **190** cm
生年月日 1997/10/14
出身校 新潟医療福祉大学



16 SF

浅野 ケニー
アサノ ケニー

身長 **198** cm
生年月日 2002/8/16
出身校 専修大学



29 SG

細川 一輝
ホソカワ カズキ

身長 **187** cm
生年月日 1997/11/17
出身校 上武大学



30 SF/PF

テレンス・ウッドベリー

身長 **203** cm
生年月日 1987/6/16
出身校 ジョージア大学



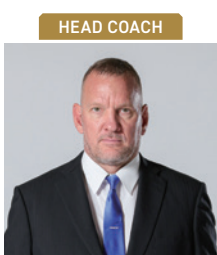
55 PF/C

谷口 大智
タニグチ ダイチ

身長 **201** cm
生年月日 1990/4/15
出身校 サウスイースタン・オクラホマ州立大学



STAFF



HEAD COACH

ヘッドコーチ

カイル・ミリング

アシスタントコーチ

加藤 翔鷹

カトウ ショウヨウ

アシスタントコーチ

西谷 亮一

ニシタニ リョウイチ

アシスタントコーチ兼スキルコーチ

池田 親平

イケダ チカヒラ

ディレクターオブスポーツパフォーマンス

ホセ・ゴンザレス

ヘッドトレーナー

高橋 忠良

タカハシ タダヨシ

アスレチックトレーナー

近藤 一穂

コンドウ カズホ

ディレクターオブアナリティクス

境谷 一樹

サカイダニ カズキ

ヘッドマネージャー兼通訳

小鉢 徹

コバチ トオル

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



Camellia

北海道ブロック代表

天皇杯最高成績
ファイナルラウンド
初出場



ブロック代表枠

セカンドラウンド結果(ベスト4以上)

| | | |
|---------------|----|----|
| Camellia | 75 | 65 |
| 駒澤大学附属苫小牧高等学校 | 76 | 68 |
| 東海大学札幌キャンパス | 88 | 86 |
| 星槎道都大学 | | |

北海道恵庭市・千歳市を拠点とするクラブチームで、2018年に創設された。近年では3年連続で北海道代表として天皇杯予選に出場。4年連続となった今年度、初のファイナルラウンド進出となった。北海道SB2リーグでは全勝優勝を果たした実力で、天皇杯での初戦突破を目指す。高確率な3ポイントシュートを武器とする攻撃的なチームだ。

0 PG/SG

白勢 恭平
シロセ キョウヘイ
身長 **183cm**
生年月日 1998/8/12
出身校 東海大学札幌

3 PG/SG

清水 健汰
シミズ ケンタ
身長 **176cm**
生年月日 1998/12/25
出身校 星槎道都大学

8 SF/PF

佐竹 宥哉
サタケ ユウヤ
身長 **190cm**
生年月日 1995/6/20
出身校 東海大学九州

9 SF/PF

皆川 悠太
ミナガワ ユウタ
身長 **189cm**
生年月日 1997/12/31
出身校 札幌学院大学

11 SG

鳴海 貴裕
ナルミ タカヒロ
身長 **177cm**
生年月日 1993/8/22
出身校 北海道教育大学 岩見沢校

13 PF

長谷川 聡
ハセガワ ソウ
身長 **188cm**
生年月日 1996/12/17
出身校 北海道教育大学 岩見沢校

15 PG/SG

田中 結也
タナカ ユウヤ
身長 **177cm**
生年月日 1995/3/31
出身校 仙台大学

17 PF/C

山戸 宥吾
ヤマト ユウゴ
身長 **188cm**
生年月日 1994/10/31
出身校 札幌大学

18 C

東藤 早汰
トウドウ ハヤタ
身長 **192cm**
生年月日 1999/5/19
出身校 札幌工業高等学校

23 PF

北林 航
キタバヤシ ワタル
身長 **182cm**
生年月日 1989/7/11
出身校 札幌大学

26 PG

太田 樹
オオタ タツキ
身長 **172cm**
生年月日 1999/7/20
出身校 北海道教育大学 岩見沢校

33 SG

濱尾 宗総
ハマオ カズフサ
身長 **179cm**
生年月日 1997/5/2日
出身校 札幌工業高等学校

STAFF



HEAD COACH

ヘッドコーチ
長谷川 聡 ハセガワ ソウ

ファーストアシスタントコーチ
杉川 匠朗 スギカワ タクロウ

部長
山崎 一樹 ヤマザキ カズキ

アシスタントコーチ
島倉 海 シマクラ カイ

アシスタントコーチ
北林 航 キタバヤシ ワタル

マネージャー
高岡 真土 タカオカ シンジ

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



リンタツ



ブロック代表枠

セカンドラウンド結果(ベスト4以上)

| | | | |
|------|--------------------|----|------|
| 愛知1位 | リンタツ | 86 | |
| 静岡1位 | IZURASHI | 74 | |
| 岐阜1位 | Gifu Seiryu Heroes | 80 | リンタツ |
| 愛知2位 | ホシザキ | 75 | |
| | | 64 | |
| | | 51 | |

東海・北信越ブロックSB2リーグで昨年度優勝。今年度も12月14日時点で1位の座に就いている。2011年に創部し、2016年には全日本社会人選手権大会で優勝、社会人の頂点に立つなど、社会人バスケットボール界をけん引してきている。緻密なチームバスケットボールを展開し、Bリーグクラブにチャレンジする。

2 SG

大野 巧人

オオノ ヨシト

身長 177 cm

生年月日 1997/4/4

出身校 立命館大学

4 PG

井戸 光邦

イド ミツクニ

身長 172 cm

生年月日 2000/4/10

出身校 中京大学

5 SF

出口 祥伍

デグチ ショウゴ

身長 186 cm

生年月日 1998/5/1

出身校 中京大学

6 SG

三嶋 宏斗

ミカモ ヒロト

身長 170 cm

生年月日 2000/6/6

出身校 中部大学第一高等学校

8 PF/C

大谷 虎生

オオタニ コウ

身長 194 cm

生年月日 1998/1/28

出身校 天理大学

9 SF

出口 凌大

デグチ リョウタ

身長 185 cm

生年月日 1994/1/26

出身校 中京大学

10 PF/C

伴 駿毅

バン シュンキ

身長 193 cm

生年月日 1996/10/10

出身校 大阪体育大学

13 SF/PF

高原 伊吹

タカハラ イブキ

身長 187 cm

生年月日 2001/4/13

出身校 近畿大学

16 PF/C

河合 海輝

カワイ ミキ

身長 195 cm

生年月日 2002/6/19

出身校 専修大学

20 PG

矢澤 樹

ヤザワ イツキ

身長 182 cm

生年月日 2000/4/14

出身校 日本大学

24 PG/SG

田口 昂大

タグチ コウダイ

身長 180 cm

生年月日 1991/4/5

出身校 愛知学泉大学

27 SG

木伏 健太

キブシ ケンタ

身長 180 cm

生年月日 1995/1/15

出身校 日本体育大学

30 SF

小林 京平

コバヤシ キョウヘイ

身長 185 cm

生年月日 2003/2/17

出身校 天理大学

33 SF

八木橋 澄人

ヤギハシ キョト

身長 187 cm

生年月日 1993/10/16

出身校 大阪学院大学

STAFF



HEAD COACH

代表

山下 良隆

ヤマシタ ヨシタカ

部長

中屋 雅晴

ナカヤ マサハル

監督

岡本 悠嗣

オカモト ユウジ

ヘッドコーチ

田口 昂大

タグチ コウダイ

ファーストアシスタントコーチ

中村 翔太

ナカムラ ショウタ

トレーナー

平井 秀征

ヒライ ヒデマサ

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



富山グラウジーズ

B2リーグ2位

天皇杯最高成績

ベスト8
(2019, 21年度)



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨シーズンB2リーグで優勝し（アルティール千葉との同時優勝）、最短1年でB1復帰を果たした富山グラウジーズ。天皇杯は昨シーズンの成績のもと選出されるため、今大会はB2枠での推薦出場となる。天皇杯の最高成績は2019、21年度のベスト8。4年ぶりのファイナルラウンド出場となった今大会ではさらなる上位進出を狙う。今季のBリーグの順位は6勝17敗でB1西地区13位。しかし1試合平均では得点83.2点（リーグ6位）、失点92.0点（10位）、リバウンド39.5本（4位）を記録しており、順位以上の実力を秘める。中心となるのはブロック・モータムと岡田雄三ら。ベテラン司令塔、宇都直輝の気迫あるプレーもチームに活力を吹き込んでいる。

2 PG

藤永 佳昭
フジナガ ヨシアキ

身長 **175** cm
生年月日 1992/4/10
出身校 東海大学

3 PG

岡田 雄三
オカダ ユウゾウ

身長 **181** cm
生年月日 1996/2/9
出身校 近畿大学

6 C

ウィリアムス ニカ

身長 **203** cm
生年月日 1987/7/9
出身校 バシフィック大学

7 SF/PF

宮本 一樹
ミヤモト カズキ

身長 **196** cm
生年月日 1999/6/17
出身校 早稲田大学

9 SG

水戸 健史
ミト タケシ

身長 **185** cm
生年月日 1985/4/23
出身校 近畿大学

11 PG

宇都 直輝
ウト ナオキ

身長 **191** cm
生年月日 1991/6/11
出身校 専修大学

12 PF

ブロック・モータム

身長 **208** cm
生年月日 1990/10/16
出身校 ワシントン州立大学

13 PF

マシュー・アキノ

身長 **205** cm
生年月日 1996/9/28
出身校 ナショナルユニバーシティ

17 PG

田中 晴瑛
タナカ ハルアキ

身長 **178** cm
生年月日 2003/2/1
出身校 駒澤大学

21 SG/SF

鎌田 隼
カマタ ハヤト

身長 **195** cm
生年月日 1998/2/21
出身校 ポートランド大学

24 PF/C

ヤニス・モラン

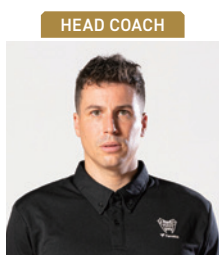
身長 **208** cm
生年月日 1993/8/31
出身校 INSEP

25 SG/SF

葛原 大智
クズハラ ダイチ

身長 **189** cm
生年月日 1996/2/5
出身校 大東文化大学

STAFF



HEAD COACH

ヘッドコーチ

ダビー・ゴメス

アシスタントコーチ

多治美 篤

タジミ アツシ

ストロングス&コンディショニングコーチ

アシエル・パラシオス

アシスタントコーチ

高原 純平

タカハラ ジュンペイ

トレーナー

山口 智也

ヤマグチ トモヤ

マネージャー

大村 彩子

オオムラ アヤコ

アシスタントコーチ

佐野 公俊

サノ キミトシ

トレーナー

坂本 彩香

サカモト アヤカ

田中 勇颯

タナカ ユウキ

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



クリッパークラブ

天皇杯最高成績
ファイナルラウンド
初出場



ブロック代表枠

セカンドラウンド 予選結果(ベスト4以上)

| | | | |
|----|---------------|----|----------|
| 香川 | クリッパークラブ | 95 | |
| 高知 | 鷹城クラブ | 78 | |
| 徳島 | 徳島クラブ | 86 | |
| 愛媛 | 愛媛BlueKnights | 55 | |
| | | 66 | |
| | | 57 | |
| | | | クリッパークラブ |

1985年に創設された香川県の古豪クラブ。今年度も香川県社会人選手権で16回目の優勝を飾っている。天皇杯ファーストラウンド香川県予選では準決勝で四国電力を1点差で下すなどして、優勝を遂げると、四国ブロックのセカンドラウンドでも優勝し、ファイナルラウンド初出場となった。プロクラブへの挑戦を「楽しみたい」と臨む。

| | | | |
|--|---|---|---|
| 0 PG 國方 俊吾 クニカタ シュンゴ 身長 170cm 生年月日 1993/11/19 出身校 県立高松商業高等学校 | 1 SG 福本 琉綺 フクモト リュウキ 身長 176cm 生年月日 2003/8/3 出身校 県立多度津高等学校 | 2 PG 戸城 悠音 トシロ ユウト 身長 169cm 生年月日 2005/4/25 出身校 県立高松工業高等学校 | 3 PG 河津 郁巳 カワヅ イクミ 身長 171cm 生年月日 1999/5/3 出身校 県立高松商業高等学校 |
| 5 PG 平尾 皓志朗 ヒラオ コウシロウ 身長 174cm 生年月日 2003/6/13 出身校 市立高松第一高等学校 | 6 SF 前田 夢輝 マエダ ユメキ 身長 185cm 生年月日 2000/11/25 出身校 県立高松工業高等学校 | 11 SF 西谷 航 ニシタニ ワタル 身長 189cm 生年月日 2001/11/29 出身校 県立高松工業高等学校 | 13 PG 迫田 瑛貴 サコダ エイキ 身長 170cm 生年月日 2004/4/1 出身校 県立高松商業高等学校 |
| 15 SG 東原 祐哉 ヒガシハラ ユウヤ 身長 170cm 生年月日 1994/9/7 出身校 県立高松商業高等学校 | 23 C 明見 京祐 ミョウケン キョウスケ 身長 185cm 生年月日 1995/2/12 出身校 県立高松商業高等学校 | 29 SG 稲田 篤 イナダ アツシ 身長 173cm 生年月日 2005/9/28 出身校 高松中央高等学校 | 50 PF 川野 裕知 カワノ ヒロアキ 身長 184cm 生年月日 1993/1/30 出身校 香川高等専門学校 |

STAFF

HEAD COACH



ヘッドコーチ

黒田 泰紀 クロダ ヤスノリ

アシスタントコーチ

升形 信勝 マスガタ ノブカツ

ファーストアシスタントコーチ

國方 俊吾 クニカタ シュンゴ



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

2017-18、18-19シーズンにBリーグ連覇を果たしたアルバルク東京。2019年にはFIBAアジアチャンピオンズカップでも優勝を遂げている。昨年の天皇杯では決勝で琉球ゴールデンキングスに敗れて準優勝。前身のトヨタ自動車時代に天皇杯を2回制しており、3度目の優勝を狙ったがあと一歩及ばなかった。今大会は昨年の雪辱を果たすべく、セバスチャン・サイズ、ライアン・ロシター、テブス海、安藤周人、小酒部泰暉を中心に挑む。今シーズンのBリーグの順位は13勝10敗で東地区5位。1試合平均得点77.0点 (10位) ながら、失点78.1点 (5位)、リバウンド38.3本 (6位)、3ポイント成功率35.5% (4位)、3ポイント成功数10.4本 (4位) とディフェンスと3ポイントシュートがチームのカギになっている。

| | | | |
|--|---|--|--|
| 2 PG/SG 大倉 颯太 <small>オオクラソウタ</small> 身長 185 cm 生年月日 1999/5/28 出身校 東海大学 | 3 PG テブス 海 <small>テブス カイ</small> 身長 188 cm 生年月日 1998/9/17 出身校 ノースカロライナ大学 <small>ウィルミントン校</small> | 5 PG/SG 中村 浩陸 <small>ナカムラ ヒロム</small> 身長 177 cm 生年月日 1997/11/29 出身校 大東文化大学 | 9 SG 安藤 周人 <small>アンドウ シュウト</small> 身長 190 cm 生年月日 1994/6/13 出身校 青山学院大学 |
| 10 SF/PF ザック・バランスキー <small>ザック バランスキー</small> 身長 193 cm 生年月日 1992/12/18 出身校 東海大学 | 11 PF/C セバスチャン・サイズ <small>セバスチャン サイズ</small> 身長 205 cm 生年月日 1994/7/15 出身校 ミシシッピ大学 | 13 SF 菊地 祥平 <small>キクチ ショウヘイ</small> 身長 191 cm 生年月日 1984/8/27 出身校 日本大学 | 17 SG マーカス・フォスター <small>マーカス フォスター</small> 身長 191 cm 生年月日 1995/6/3 出身校 クレイトン大学 |
| 21 C 平岩 玄 <small>ヒライワ ゲン</small> 身長 200 cm 生年月日 1997/12/5 出身校 東海大学 | 22 PF/C ライアン・ロシター <small>ライアン ロシター</small> 身長 206 cm 生年月日 1989/9/14 出身校 シエナ大学 | 25 PG/SG 福澤 晃平 <small>フクザワ コウヘイ</small> 身長 177 cm 生年月日 1993/4/2 出身校 関西大学 | 75 SG 小酒部 泰暉 <small>オサカベ タイキ</small> 身長 187 cm 生年月日 1998/7/15日 出身校 神奈川大学 |

STAFF

| | | | |
|---|---|---|--|
| HEAD COACH  | ヘッドコーチ デイニラス・アドマイティス | アシスタントコーチ/スカウティングコーチ 池端 幹司 <small>イケハタ カンジ</small> | アスレティックトレーナー 佐藤 寛輝 <small>サトウ ヒロキ</small> |
| | トップアシスタントコーチ兼通訳 岩部 大輝 <small>イワベ ヒロキ</small> | アシスタントコーチ/スキルコーチ兼通訳 山口 祐希 <small>ヤマグチ ユウキ</small> | マネージャー 鈴木 理恵子 <small>スズキ リエコ</small> |
| | アシスタントコーチ エヴァルダス・ベルジニンカイトイス | アシスタントコーチ/スキルコーチ 友利 健哉 <small>トモリ ケンヤ</small> | マネージャー 武田 有人 <small>タケダ ユウト</small> |



三遠ネオフェニックス

B1リーグ3位

天皇杯最高成績

3位
(2006、24年度)



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨年度の天皇杯では、セミファイナルで琉球ゴールデンキングスに敗れてベスト4。Bリーグでもセミファイナルで琉球の前に涙をのみ、天皇杯とBリーグともに琉球の壁に阻まれた。今シーズンは司令塔の佐々木隆成が負傷もあり10勝13敗で西地区8位と苦戦を強いられているが、大黒柱のデビッド・ヌワバ、日本代表の吉井裕鷹、ガードの大浦颯太を中心に巻き返しを狙っている。1試合平均得点82.3点 (8位)、失点81.7点 (8位)、リバウンド37.4本 (7位)、3ポイント成功率34.7% (6位)、3ポイント成功数9.8本 (6位)と安定感を見せているが、昨シーズン、一昨シーズンとB1リーグ中地区優勝を飾っているだけに、念願の日本一に向けて、もう1段階ギアを上げて天皇杯を勝ち上がりたい。

2 SG/SF

デビッド・ヌワバ

身長 **196** cm
生年月日 1993/1/14
出身校 カリフォルニア・ポリテクニック州立大学

外

5 PG

大浦 颯太

オオウラ ソウタ

身長 **182** cm
生年月日 1997/12/23
出身校 日本体育大学

7 PF/C

キャメロン・ジャクソン

身長 **203** cm
生年月日 1996/2/7
出身校 ウォフォード大学

外

10 SF

吉井 裕鷹

ヨシイ ヒロタカ

身長 **196** cm
生年月日 1998/6/4
出身校 大阪学院大学

11 SF

浅井 英矢

アサイ ヒデヤ

身長 **197** cm
生年月日 2003/2/28
出身校 筑波大学

14 PG

湧川 颯斗

ワクガワ ハヤト

身長 **197** cm
生年月日 2004/5/2
出身校 福岡大学附属大濠高等学校

15 C

河田 チリジ

カワタ チリジ

身長 **208** cm
生年月日 1989/6/10
出身校 ニューメキシコ州立大学

帰

20 PG

根本 大

ネモト ダイ

身長 **180** cm
生年月日 2002/9/11
出身校 白鷲大学

21 PF

鈴木 悠介

スズキ ユウスケ

身長 **200** cm
生年月日 1997/6/6
出身校 法政大学

24 PG/SG

佐々木 隆成

ササキ リュウセイ

身長 **180** cm
生年月日 1996/5/2
出身校 天理大学

CAP

28 SG

津屋 一球

ツヤ カズマ

身長 **191** cm
生年月日 1998/6/7
出身校 東海大学

STAFF



HEAD COACH

ヘッドコーチ

大野 篤史

オオノ アツシ

アシスタントコーチ兼通訳

綾部 舞

アヤベ マイ

ハイパフォーマンスディレクター

神鳥 亮太

カンドリ リョウタ

アシエイトコーチ

エヴェンゲロス・マギラス

スキルディベロップメントコーチ

大村 将基

オオムラ ショウキ

トレーナー

松田 直晋

マツダ ナオユキ

アシスタントコーチ

前田 浩行

マエダ ヒロユキ

ビデオアナリスト

木村 和希

キムラ カズキ

ヘッドマネージャー

早坂 咲輝

ハヤサカ サキ

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



REBORN

北信越ブロック代表

天皇杯最高成績
ファイナルラウンド
初出場



ブロック代表枠

セカンドラウンド 予選結果(ベスト4以上)

| | | |
|----|------------|-----|
| 新潟 | REBORN | 92 |
| 富山 | 富山大学 | 78 |
| 福井 | 北陸高等学校 | 80 |
| 石川 | 石川ブルースパークス | 108 |
| 長野 | AVISTERS東海 | 62 |

天皇杯ファーストラウンドとなる新潟県選手権決勝では、新潟経営大学との延長戦を制し優勝。セカンドラウンド北信越ブロックでは北陸高校、SB2リーグに参戦している石川ブルースパークスを撃破して、ファイナルラウンドに初進出を果たした。「チーム全員で楽しむ」ことを目標にするREBORNの快進撃はどこまで続くか。

2 PF/C

高田 大地
タカタ ダイチ
身長 **180** cm
生年月日 1996/3/20
出身校 新潟医療福祉大学



5 PG

樋口 聖
ヒグチ ヒジリ
身長 **173** cm
生年月日 1996/9/20
出身校 関東学院大学



7 SG/SF

田村 大樹
タムラ ダイキ
身長 **184** cm
生年月日 1995/11/5
出身校 神奈川大学



10 SG/SF

平衛 瑞己
ヒラグシ ミズキ
身長 **175** cm
生年月日 1999/9/14
出身校 帝京長岡高等学校



11 SG/SF

片桐 拓人
カタギリ タクト
身長 **177** cm
生年月日 1995/8/13
出身校 新潟医療福祉大学



13 PG/SG

渡邊 陸
ワタナベ リク
身長 **173** cm
生年月日 1999/9/13
出身校 帝京長岡高等学校



14 SF/PF

中町 優太
ナカマチ ユウタ
身長 **190** cm
生年月日 1995/9/28
出身校 県立六日町高等学校



20 PG/SG

棚橋 恒介
タナハシ コウスケ
身長 **184** cm
生年月日 1998/10/28
出身校 新潟経営大学



23 PG

山本 健太
ヤマモト ケンタ
身長 **170** cm
生年月日 1995/8/23
出身校 新潟工業短期大学



24 SF/PF

荒木 慎也
アラキ シンヤ
身長 **182** cm
生年月日 2000/5/22
出身校 新潟経営大学



25 SG/SF

大矢 隼
オオヤ シュン
身長 **182** cm
生年月日 2001/6/10
出身校 駒澤大学



26 SG/SF

風巻 竜雅
カザマキ リュウガ
身長 **185** cm
生年月日 1999/6/25
出身校 県立十日町高等学校



31 SG/SF

長谷川 大聖
ハセガワ タイセイ
身長 **182** cm
生年月日 1997/1/21
出身校 神奈川大学



32 PF/C

八重樫 響生
ヤエガシ ヒビキ
身長 **191** cm
生年月日 1998/12/21
出身校 新潟経営大学



44 SG/SF

風巻 竜英
カザマキ リュウエイ
身長 **185** cm
生年月日 2004/8/9
出身校 県立新潟工業高等学校



90 PG/SG

富樫 聖斗
トガシ セイト
身長 **180** cm
生年月日 2002/9/10
出身校 新潟経営大学



STAFF



HEAD COACH

ヘッドコーチ

高田 愛梨

タカタ アイリ

マネージャー

庭野 太郎

ニワノ タロウ

ファーストアシスタントコーチ

山本 秀樹

ヤマモト ヒデキ

マネージャー

高橋 凜太郎

タカハシ リンタロウ

アシスタントコーチ

中町 優太

ナカマチ ユウタ

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



日本体育大学

大学1位

天皇杯最高成績

3位(1966年)



大学推薦枠

2025年度関東大学選手権結果(ベスト4以上)

| | | | | | |
|--------|----|----|----|----|--------|
| 日本体育大学 | 84 | 54 | 91 | 87 | 日本体育大学 |
| 日本大学 | | | | | |
| 明治大学 | 71 | 91 | | | |
| 白鷗大学 | | | | | |

1926年創部、インカレ14回の優勝を誇る伝統校。今年度は春の関東選手権大会で優勝し、天皇杯への出場権を得た。インカレではベスト8にとどまったが、その悔しさを天皇杯にぶつける。「6秒オフェンス」と呼ぶスピーディーなトランジションバスケットボールでコート中を走り回り、1つでも多く勝ち上がりたい。

| | | | |
|--|--|---|--|
| 1 C コネ ボウゴウジィ ディット ハメード 身長 205 cm 生年月日 2003/12/19 出身校 帝京長岡高等学校 外 | 5 SF 高口 陽季 コウグチ ハルキ 身長 190 cm 生年月日 2005/7/26 出身校 福岡第一高等学校 | 6 SF 吉田 叶貴 ヨシダ トキ 身長 183 cm 生年月日 2004/12/26 出身校 八王子学園八王子高等学校 | 7 SF 西部 秀馬 ニシベ シュウマ 身長 188 cm 生年月日 2003/5/20 出身校 東山高等学校 |
| 10 SF 早田 流星 ハヤタ リュウセイ 身長 185 cm 生年月日 2003/7/18 出身校 福岡第一高等学校 CAP | 11 PG 山口 瑛司 ヤマグチ エイシ 身長 181 cm 生年月日 2005/4/12 出身校 福岡第一高等学校 | 15 C サー シェツハ 身長 200 cm 生年月日 2005/5/7 出身校 福岡第一高等学校 外 | 18 SG 野田 悠峨 ノダ ユウガ 身長 182 cm 生年月日 2005/4/8 出身校 飛龍高等学校 |
| 21 PG 月岡 熙 ツキオカ ヒカル 身長 174 cm 生年月日 2003/10/21 出身校 昌平高等学校 | 23 PG/SG 東郷 然 トウゴウ ゼン 身長 188 cm 生年月日 2006/5/21 出身校 京都精華学園高等学校 | 25 PG 角野 寛伍 スミノ カンゴ 身長 178 cm 生年月日 2004/8/24 出身校 東山高等学校 | 35 PG 大江 悠斗 オオエ ユウト 身長 170 cm 生年月日 2004/4/9 出身校 北陸高等学校 |
| 41 SG 石川 響太郎 イシカワ ショウタロウ 身長 181 cm 生年月日 2003/9/27 出身校 県立小林高等学校 | 45 SG 朝田 健心 アサダ ケンシン 身長 180 cm 生年月日 2004/10/9 出身校 金沢学院高等学校 | 52 SF 小田 健太 オダ ケンタ 身長 187 cm 生年月日 2004/6/9 出身校 福岡第一高等学校 | 55 PF 寺岡 拓真 テラオカ タクマ 身長 180 cm 生年月日 2004/5/5 出身校 金沢高等学校 |

STAFF

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|-----------------------------------|
| HEAD COACH  | ヘッドコーチ 藤田 将弘 フジタ マサヒロ | トレーナー 上倉 将太 カミクラ ショウタ | マネージャー 石原 修平 イシハラ シュウヘイ |
| ファーストアシスタントコーチ 竹山 快 タケヤマ カイ | アシスタントコーチ 今泉 陽雲 イマイズミ ヤクモ | アシスタントマネージャー 服部 珠也 ハツトリ シュウヤ | |
| アシスタントコーチ 伊藤 瑠偉 イトウ ルイ | アシスタントコーチ 鴨田 成 カモダ ナル | アシスタントトレーナー 鈴木 陸 スズキ リク | |

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



アルティース千葉

天皇杯最高成績
ファイナルラウンド
初出場

トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨シーズン、3度目のチャレンジにして悲願のB2リーグ初制覇（富山グラウジーズと同時優勝）を遂げたアルティース千葉。天皇杯は昨季の成績のもと選出されるため、今大会へはB2枠での推薦となる。ベテランの大塚裕士がチームの士気を高め、デレク・パードン、木田貴明、前田怜緒が軸となって攻めている。司令塔の黒川虎徹が試合をこなすごとに調子を上げているのも強みだ。B1初参戦の今シーズン、現在の順位は8勝15敗でB1東地区9位。1試合平均がリーグ3位となるリバウンド（40.4本）力がチームに安定感を与え、同様にリーグ3位の3ポイント成功率36.0%がオフェンスのカギ。一発勝負の天皇杯で、さらなる存在感を示したい。

| | | | | | | | |
|---|--|--|--|---|--|---|--|
| 0 SF 木田 貴明 <small>キダ タカアキ</small> 身長 188 cm 生年月日 1995/7/16 出身校 青山学院大学 | | 3 PG 黒川 虎徹 <small>クロカワ コテツ</small> 身長 175 cm 生年月日 2001/4/8 出身校 東海大学 | | 5 SG/SF 前田 怜緒 <small>マエダ レオ</small> 身長 191 cm 生年月日 1997/9/15 出身校 白鷲大学 | | 7 PF/C デレク・パードン 身長 203 cm 生年月日 1996/10/1 出身校 ノースウェスタン大学 | |
| 8 SG 長谷川 智也 <small>ハセガワ トモヤ</small> 身長 185 cm 生年月日 1989/4/22 出身校 法政大学 | | 11 PG 杉本 慶 <small>スギモト ケイ</small> 身長 184 cm 生年月日 1992/7/9 出身校 中京大学 | | 16 PG/SG 大崎 裕太 <small>オオサキ ユウタ</small> 身長 177 cm 生年月日 1994/6/1 出身校 青山学院大学 | | 22 PF/C トレイ・ポーター 身長 210 cm 生年月日 1996/6/24 出身校 ネバダ大学 | |
| 24 SG 大塚 裕士 <small>オオツカ ユウト</small> 身長 188 cm 生年月日 1987/8/23 出身校 東海大学 | | 27 SF 熊谷 尚也 <small>クマガエ ナオヤ</small> 身長 195 cm 生年月日 1990/11/16 出身校 日本体育大学 | | 33 PF エヴァンス ルーク 身長 203 cm 生年月日 1991/3/16 出身校 カリフォルニア・バプティスト大学 | | 42 SF/PF 渡邊 伶音 <small>ワタナベ レオン</small> 身長 206 cm 生年月日 2006/4/2 出身校 東海大学 | |

STAFF

| | | | |
|--|--|--|--|
| HEAD COACH | ヘッドコーチ アンドレ・レマニス | アシスタントコーチ/通訳 富岡 大地 トミオカ ダイチ | アドバイザー 北館 洋一郎 キタダテ ヨウイチロウ |
| アシスタントコーチ/通訳 河内 修斗 カワチ シュウト | アシスタントコーチ/通訳 瀧澤 賢志 タキザワ ケンシ | アシスタントコーチ/通訳 原 健太郎 ハラ ケンタロウ | マネージャー 菅野 亮太 カンノ リョウタ |
| アシスタントコーチ/通訳 瀧澤 賢志 タキザワ ケンシ | アシスタントコーチ/通訳 原 健太郎 ハラ ケンタロウ | マネージャー/通訳 内山 七海 ウチヤマ ナナミ | |

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



環太平洋大学



ブロック代表枠

セカンドラウンド 予選結果(ベスト4以上)

| | | | |
|----|---------------|----|----|
| 広島 | BEANS | 69 | |
| 島根 | Cats | 74 | 79 |
| 岡山 | 環太平洋大学 | 85 | 85 |
| 山口 | 山口クラブ | 60 | 56 |
| 鳥取 | Triple Double | 46 | |

B3リーグのトライフープ岡山と連携し、U22として活動を行う。昨年度はインカレで中国地区初となるブロック予選を突破し、2回戦進出(ベスト24)を果たしている。今年度もインカレ出場、そして天皇杯セカンドラウンド中国ブロックを勝ち抜いた。豊富な運動量を武器に初出場となるファイナルラウンドで完全燃焼したい。

1 PF

松田 銀太

マツダギンタ

身長 185 cm
生年月日 2004/6/1

出身校 柳川高等学校



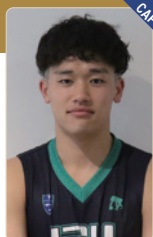
3 SG/SF

中塚 空

ナカツカ ソラ

身長 175 cm
生年月日 2004/1/3

出身校 作陽学園高等学校



6 PF/C

内田 陸

ウチダ リョ

身長 185 cm
生年月日 2004/1/13

出身校 県立佐賀東高等学校



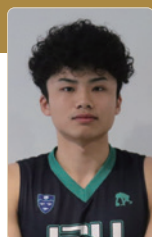
7 SF/PF

長谷川 立樹

ハセガワ リッキ

身長 187 cm
生年月日 2004/12/10

出身校 帝京長岡高等学校



10 SF/PF

井上 大夢

イノウエ ヒロム

身長 181 cm
生年月日 2004/11/14

出身校 県立糸島高等学校



11 PG

戸坂 透也

トサカ ユキヤ

身長 178 cm
生年月日 2004/3/13

出身校 関西高等学校



13 PG

野津 大暉

ノゾ ダイキ

身長 166 cm
生年月日 2004/11/12

出身校 明徳義塾高等学校



15 C

ナトゥリ
ベナミネ身長 203 cm
生年月日 2004/11/11

出身校 東山高等学校



16 SF

西村 遼介

ニシムラ リョウスケ

身長 183 cm
生年月日 2006/5/9

出身校 県立宇部工業高等学校



23 PG/SG

渡邊 紘斗

ワタナベ ヒロト

身長 180 cm
生年月日 2007/1/15

出身校 関西高等学校



24 PG/SG

岸本 稜平

キシモト リョウヘイ

身長 172 cm
生年月日 2003/9/2

出身校 明徳義塾高等学校



35 SG

木下 翔太郎

キノシタ ショウタロウ

身長 180 cm
生年月日 2005/7/3

出身校 金光桐蔭高等学校



37 SF

梅田 眞央

ウメダ マオ

身長 180 cm
生年月日 2005/7/26

出身校 市立科学技術高等学校



67 SG

内田 修也

ウチダ シュウヤ

身長 179 cm
生年月日 2005/6/17

出身校 県立宗像高等学校



79 SG

坪井 健太郎

ツボイ ケンタロウ

身長 175 cm
生年月日 2006/7/8

出身校 関西高等学校



99 PF/C

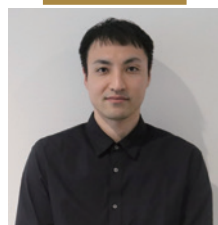
ディオップ
モハメド身長 196 cm
生年月日 2004/9/22

出身校 呉港高等学校



STAFF

HEAD COACH



部長

國友 亮佑

クニトモ リョウスケ

アシスタントコーチ

河原 晴大

ゴウバラ ハルヒロ

トレーナー

村元 智紀

ムラモト サトキ

ヘッドコーチ

川満 寿史

カワミットシフミ

アシスタントコーチ

日高 里玖斗

ヒダカ リクト

マネージャー

福元 里奈

フクモト リナ

ファーストアシスタントコーチ

角谷 大成

カダヤ ダイナ

トレーナー

井上 未来翔

イノウエ ミコト

マネージャー

内藤 温

ナイトウ ハル



島根スサノオマジック

B1リーグ6位

天皇杯最高成績
4次ラウンド／
ベスト10 (2022年度)



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

B1リーグではこの4シーズンで3回のチャンピオンシップ進出を果たし、近年急激に力を付けているチーム。天皇杯では2022年度の4次ラウンド進出が最高成績で、準々決勝進出目前にして阻まれている。今大会はトップリーグ推薦枠に選出され、ファイナルラウンド初出場、新たな歴史を刻むことになる。大黒柱のニック・ケイと得点源の岡田侑大を軸に、納見悠仁、飯尾文哉ら成長中のガード陣の出来がカギを握る。今季のB1リーグの順位は13勝10敗で西地区5位。1試合平均得点84.1点(3位)と高い攻撃力を誇り、ディフェンスを見ても失点81.3点(7位)と高位にランク。天皇杯で新たな歴史を刻めるが注目したい。

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|--|--|--|---|
| 1 PF コティ・クラーク <small>身長 201 cm</small> <small>生年月日 1992/7/4</small> <small>出身校 アーカンソー大学</small> |  | 4 PF/C ニック・ケイ <small>身長 206 cm</small> <small>生年月日 1992/8/3</small> <small>出身校 メトロポリタン州立大学デンバー校</small> |  | 6 PG 北川 弘 <small>キタガワ ヒロム</small> <small>身長 183 cm</small> <small>生年月日 1991/10/16</small> <small>出身校 日本体育大学</small> |  | 7 SF/PF 介川 アンソニー翔 <small>スケガワ アンソニーショウ</small> <small>身長 197 cm</small> <small>生年月日 2004/3/30</small> <small>出身校 専修大学</small> |  |
| 11 PG/SG 中村 太地 <small>ナカムラ タイチ</small> <small>身長 190 cm</small> <small>生年月日 1997/6/29</small> <small>出身校 法政大学</small> |  | 15 SG/SF 白濱 僚祐 <small>シラハマ リョウスケ</small> <small>身長 189 cm</small> <small>生年月日 1991/8/29</small> <small>出身校 白鷲大学</small> |  | 20 SF 上田 隼輔 <small>ウエダ シュンスケ</small> <small>身長 188 cm</small> <small>生年月日 1999/9/18</small> <small>出身校 京都産業大学</small> |  | 21 PG/SG 納見 悠仁 <small>ノミ ユウト</small> <small>身長 182 cm</small> <small>生年月日 1997/4/10</small> <small>出身校 青山学院大学</small> |  |
| 22 SG 飯尾 文哉 <small>イイオ フミヤ</small> <small>身長 187 cm</small> <small>生年月日 2000/6/10</small> <small>出身校 日本大学</small> |  | 24 PG 岡本 飛竜 <small>オカモト ヒリュウ</small> <small>身長 170 cm</small> <small>生年月日 1993/4/20</small> <small>出身校 拓殖大学</small> |  | 25 PF/C ダマ ムッサ <small>身長 207 cm</small> <small>生年月日 1996/7/3</small> <small>出身校 イースタン・イリノイ大学</small> |  | 77 PG/SG 岡田 侑大 <small>オカダ ユウタ</small> <small>身長 189 cm</small> <small>生年月日 1998/6/10</small> <small>出身校 拓殖大学</small> |  |

STAFF

| | | | |
|--|---|--|--|
| HEAD COACH  | ヘッドコーチ ペータル・ボジッチ | アシスタントコーチ ディオン・ブルースター | ヘッドアスレティックトレーナー 小島 佳純 <small>コジマ ヨシヒロ</small> |
| | トップアシスタントコーチ デュシャン・グヴォズディッチ | アシスタントコーチ兼ビデオコーディネーター 井上 諒 <small>イノウエ リョウ</small> | アスレティックトレーナー 宮原 陽介 <small>ミヤハラ ヨウスケ</small> |
| | アシスタントコーチ兼通訳 栗野 譲 <small>クリノ ジョウ</small> | ストレングス&コンディショニングコーチ 藤田 基弘 <small>フジタ モトヒロ</small> | アスレティックトレーナー 関根 蒼 <small>セキネ アオイ</small> |

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



宇都宮ブレックス

B1リーグ 1位

天皇杯最高成績

優勝(2007、12年)



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨シーズンは3シーズンぶり3度目のリーグ制覇を果たし、直後のBCLアジアで初優勝を果たした。天皇杯は前身のリンク栃木ブレックス時代を含め準優勝が3回。これまで優勝目でタイトルを逃しているだけに、天皇杯にける思いは強い。今季のB1リーグの順位は18勝5敗で東地区 3位。DJ・ニュービルと比江島慎が得点の柱となり、ケガから復活した小川敦也や、インサイドで奮闘するベテラン竹内公輔らの活躍がカギを握るだろう。今シーズンのB1リーグでの成績は、1試合平均で得点84.5点(2位)、失点77.7点(4位)、リバウンド38.8本(5位)、3ポイント成功率34.7%(7位)、3ポイント成功数12.1本(1位)と攻防において好成績を残している。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 0 PG 田臥 勇太 タブセ ユウタ 身長 173 cm 生年月日 1980/10/5 出身校 プリガムヤング大学ハワイ校 | 6 SG 比江島 慎 ヒエジマ マコト 身長 191 cm 生年月日 1990/8/11 出身校 青山学院大学 | 7 PG 小川 敦也 オガワ アツヤ 身長 190 cm 生年月日 2002/6/24 出身校 筑波大学 | 9 SG 遠藤 祐亮 エンドウ ユウスケ 身長 186 cm 生年月日 1989/10/19 出身校 大東文化大学 |
| 10 PF/C 竹内 公輔 タケウチ コウスケ 身長 206 cm 生年月日 1985/1/29 出身校 慶應義塾大学 | 11 PF 青木 ブレイク アオキ ブレイク 身長 205 cm 生年月日 1993/11/13 出身校 ニューヨーク市立大学シテカレッジ | 12 SG 高島 紳司 タカシマ シンジ 身長 191 cm 生年月日 2000/10/13 出身校 大東文化大学 | 13 PG 渡邊 裕規 ワタナベ ヒロノリ 身長 180 cm 生年月日 1988/3/22 出身校 青山学院大学 |
| 15 PG 石川 裕大 イシカワ ユウダイ 身長 174 cm 生年月日 2004/11/24 出身校 Combine Academy | 17 SF 星川 開聖 ホシカワ カイセイ 身長 194 cm 生年月日 2004/11/19 出身校 筑波大学 | 18 PG 鵜 誠司 イカルガ セイジ 身長 185 cm 生年月日 1994/1/8 出身校 青山学院大学 | 25 PG/SG D.J・ニュービル 身長 193 cm 生年月日 1992/5/22 出身校 ペンシルベニア州立大学 |
| 33 PF ギャビン・エドワーズ 身長 206 cm 生年月日 1988/1/15 出身校 コネチカット大学 | 42 PF アイザック・フォトゥ 身長 203 cm 生年月日 1993/12/18 出身校 ハワイ大学 | | |

STAFF

| | | | |
|-----------------------|------------------------------|---------------------------------|---|
| HEAD COACH | ヘッドコーチ ジーコ・コロネル | アシスタントコーチ 梅津 ひなの | アスレティックトレーナー 羽山 拓輝 |
| | アシスタントコーチ 田中 誠人 | アシスタントコーチ ジャクソン・スタバンス | 通訳 兼 チームマネージャー・GMアシスタント 加藤 敏章 |
| | アシスタントコーチ トレント・アダム | アスレティックトレーナー 吉原 美樹 | アナリスト 伊達 蓮 |

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化

山形クベーラ



ブロック代表枠

セカンドラウンド 予選結果(ベスト4以上)

| | | | |
|----|------------------|----|----|
| 山形 | 山形クベーラ | 84 | 76 |
| 青森 | 青森CYGNUS NEXT | 88 | 68 |
| 秋田 | 厚生倶楽部 | 90 | 64 |
| 岩手 | ST-IWATE LANDERS | 76 | 54 |
| 福島 | 福島Sirius Blacks | 60 | 58 |
| 宮城 | 仙台大学 | | |

社会人トップカテゴリーのSB1リーグに所属するクラブチーム。2010年に創設、近年は山形県を代表するチームとして、東北ブロック、全国大会等で実績を残している。今大会は東北ブロックでのセカンドラウンドを勝ち上がり、ファイナルラウンド初進出を決めた。ファストブレイクを繰り出し、Bリーグクラブに挑む。

| | | | |
|--|---|--|---|
| 0 PG 土屋 真人 ツチャ マサト 身長 174 cm 生年月日 1995/3/31 出身校 日本大学 | 1 PF 高橋 丈一郎 タカハシ ジョウイチロウ 身長 190 cm 生年月日 1996/7/18 出身校 名古屋経済大学 | 3 SF 阿部 翔太 アベ ショウタ 身長 191 cm 生年月日 1993/11/3 出身校 立教大学 | 5 SG 渡邊 諒 ワタナベ リョウ 身長 182 cm 生年月日 1997/5/18 出身校 専修大学 |
| 10 C ダンテ スレマニィ 身長 202 cm 生年月日 2001/8/16 出身校 国士館大学 | 13 PF 福井 歩 フクイ アユム 身長 190 cm 生年月日 1997/5/17 出身校 東洋大学 | 14 SF 畑 伸秀 ハタ ノブヒデ 身長 187 cm 生年月日 1989/12/16 出身校 専修大学 | 15 SF 佐藤 寛太 サトウ カンタ 身長 190 cm 生年月日 2002/6/15 出身校 専修大学 |
| 21 PF 今井 弘己 イマイ ヒロキ 身長 184 cm 生年月日 2002/11/18 出身校 明星大学 | 25 PG 三浦 拓真 ミウラ タクマ 身長 175 cm 生年月日 2000/7/28 出身校 上武大学 | 26 SG 香取 昇汰 カトリ ショウタ 身長 186 cm 生年月日 2000/11/1 出身校 上武大学 | 34 PF 堀 直人 ホリ ナオト 身長 185 cm 生年月日 1991/4/2 出身校 県立山形南高等学校 |
| 45 C シソコ ドラマネ 身長 205 cm 生年月日 2001/3/10 出身校 白鷲大学 | 68 PG 永田 晃司 ナガタ コウジ 身長 181 cm 生年月日 1981/7/31 出身校 拓殖大学 | 95 SF 齋藤 瑠偉 サイトウ ルイ 身長 192 cm 生年月日 2000/2/6日 出身校 専修大学 | |

STAFF

| | | |
|-----------------------|--|---|
| HEAD COACH | ヘッドコーチ 澁谷 豪 シンバ ヲウ | マネージャー 高橋 瑠佳 タカハシ ルカ |
| | ファーストアシスタントコーチ 畑 伸秀 ハタ ノブヒデ | トレーナー 穴戸 隆典 シンド タカノリ |
| | アシスタントコーチ 伊藤 和貴 イトウ カズキ | アシスタントトレーナー 菊地 忍 キクチ シノブ |



信州ブレイブウォリアーズ

B2リーグ3位

天皇杯最高成績
準々決勝進出
(2021、22年度)



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨シーズンB2リーグで3位の成績を収め、天皇杯ファイナルラウンドの出場権を獲得。過去の天皇杯の最高成績は準々決勝進出（ベスト6）。2021年度にはシーホース三河に勝利し、初の準々決勝進出に名乗りを上げた。今季のBリーグの順位は17勝7敗でB2東地区2位。チームの得点源となる土家大輝は40%を超える高確率の3ポイントシュートを武器にしている。207cmの高さを持つ日本代表のセンター、渡邊飛勇のプレーも期待されるところだ。今シーズンのB2リーグでは1試合平均得点81.4点（2位）、失点71.0点（1位）、リバウンド41.9本（1位）、3ポイント成功率36.6%（1位）、3ポイント成功数12.1本（1位）と好成績を残している。

| | | | |
|---|--|--|--|
| 0 SF 福島 ハリス 慈音ウチエ フクシマ ハリス ジオンウチエ 身長 190 cm 生年月日 2003/12/25 出身校 マーシャルタウン コミュニティカレッジ | 3 SF/PF エリエット・ドンリー 身長 198 cm 生年月日 1996/12/11 出身校 シャミナード大 大学 | 4 PF 小玉 大智 コダマ タイチ 身長 185 cm 生年月日 2000/6/17 出身校 東海大学 | 5 PG 土家 大輝 ツチヤ ダイキ 身長 174 cm 生年月日 2000/4/5 出身校 早稲田大学 |
| 7 PF アンジェロ・チョル 身長 206 cm 生年月日 1993/7/15 出身校 サンディエゴ 州立大学 | 11 PG 小栗 瑛哉 オグリ アキトシ 身長 175 cm 生年月日 2001/3/1 出身校 大阪産業大学 | 12 SG 栗原 ルイス クリハラ ルイス 身長 188 cm 生年月日 1996/11/3 出身校 ウィットティア大 学 | 15 SF アキ・チェンバース 身長 191 cm 生年月日 1990/9/19 出身校 カリフォルニア 大学マーセド校 |
| 27 SF 東海林 奨 トウカイリン ススム 身長 193 cm 生年月日 2001/1/28 出身校 白鷲大学 | 34 PF 渡邊 飛勇 ワタナベ ヒュウ 身長 207 cm 生年月日 1998/12/23 出身校 カリフォルニア大学 デービス校大学院 | 46 PG 生原 秀将 イクハラ シュウスケ 身長 182 cm 生年月日 1994/5/24 出身校 筑波大学 | 50 C ウェイン・マーシャル 身長 211 cm 生年月日 1986/1/7 出身校 テンプル大学 |
| 51 SG 横山 悠人 ヨコヤマ ハルト 身長 183 cm 生年月日 2000/12/17 出身校 神奈川大学 | | | |

STAFF

| | | | |
|-----------------------|---|---|---|
| HEAD COACH | ヘッドコーチ 勝久 マイケル カツヒサ マイケル | 通訳兼ビデオコーディネーター 金井 颯 カナイ ハヤト | アスレティックトレーナー 若尾 達壮 ワカオ タツアキ |
| | ファーストアシスタントコーチ 久山 智士 ヒサヤマ サトシ | ヘッドアスレティックトレーナー 今崎 嘉樹 イマザキ ヨシキ | マネージャー 西口 菜月 ニシグチ ナツキ |
| | アシスタントコーチ カイル・マーシャル | ストレングス&コンディショニングコーチ 繁田 雅樹 シゲタ マサキ | アシスタントビデオコーディネーター 渡辺 怜花 ワタナベレイカ |

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化

PECKERS

JR東日本秋田PECKERS

天皇杯最高成績

ファイナルラウンド
2回戦進出(2016年度)



社会人推薦枠

2025年度 高松宮記念杯全日本社会人プレミアムチャンピオンシップ
(ベスト4以上)

| | | |
|-----------------|----|----------------|
| JR東日本秋田PECKERS | 87 | |
| ONELYS wakayama | 65 | |
| 富士通 | 78 | 61 |
| 横河電機WILDBLUE | 75 | 67 |
| | | JR東日本秋田PECKERS |

1947年に創部された社会人チームの名門。近年も全日本社会人プレミアムチャンピオンシップで昨年度、昨年度と連覇を果たしている。今年度は社会人トップカテゴリーのSB1リーグにおいて、2ラウンドを残した段階で優勝を決めている。プロクラブに勝利することを目指しフルコートのプレッシャーディフェンスで勝負する。

1 SF/PF

ジャキティ
ダオウダ

身長 198cm
生年月日 2000/9/12
出身校 江戸川大学



外

3 SG

中山 玄己

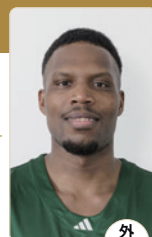
ナカヤマ ゲンキ
身長 178cm
生年月日 2002/6/10
出身校 名古屋学院大学



4 C

ジリメンヤ
カトウフセイン

身長 203cm
生年月日 2001/7/10
出身校 神戸医療未来大学



外

6 PF

中川 祥一郎

ナカガワ ショウイチロウ
身長 186cm
生年月日 2000/4/16
出身校 大東文化大学



9 SG

小室 望海

コムロ ノゾミ
身長 180cm
生年月日 1997/6/22
出身校 拓殖大学



10 PF

織田 祐光

オダ ユウコウ
身長 190cm
生年月日 2002/5/9
出身校 拓殖大学



11 PG

内藤 凌太

ナイトウ リョウタ
身長 181cm
生年月日 2001/10/29
出身校 日本経済大学



13 PG

中澤 海斗

ナカザワ カイト
身長 183cm
生年月日 1999/5/6
出身校 玉川大学



15 PG

板敷 遼

イタシキ リョウ
身長 170cm
生年月日 2002/4/2
出身校 神戸医療未来大学



17 SG

大川 颯斗

オオカワ ハヤト
身長 180cm
生年月日 2001/3/17
出身校 江戸川大学



20 C

森下 魁

モリシタ カイ
身長 203cm
生年月日 1997/8/5
出身校 筑波大学



25 SG/SF

向 奏瑠

ムカイ カナル
身長 190cm
生年月日 2002/3/27
出身校 神奈川大学



30 PF

三浦 拓

ミウラ タク
身長 193cm
生年月日 2002/3/12
出身校 神奈川大学



35 PF

秋野 風季

アキノ フウキ
身長 192cm
生年月日 1996/7/28
出身校 白鷗大学



91 SF/PF

斉藤 大輔

サイトウ ダイスケ
身長 188cm
生年月日 1997/11/7
出身校 県立能代工業高等学校



CAP

99 SG/SF

山崎 渉真

ヤマザキ ショウマ
身長 186cm
生年月日 1993/8/11
出身校 大東文化大学



STAFF

HEAD COACH



部長

小林 武彦 コバヤシ タケヒコ

引率責任者

石橋 拓 イシバシ タク

ヘッドコーチ

佐藤 光 サトウ ヒカル

アシスタントコーチ

志水 一希 シミズ カズキ

マネージャー

丸山 純弥 マルヤマ ジュンヤ

トレーナー

戸島 義夫 トシマ ヨシオ

その他

高野 洋平 タカノ ヨウヘイ

その他

齊藤 絢子 サイトウ アヤコ



白鷗大学

天皇杯最高成績
ファイナルラウンド2
回戦進出(2016年度)



ブロック代表枠

セカンドラウンド結果(ベスト4以上)

| | | | |
|----|---------------|----|------|
| 栃木 | 白鷗大学 | 79 | |
| 山梨 | 山梨学院大学 | 74 | |
| 茨城 | プロテリアル ブルドックス | 74 | 白鷗大学 |
| 埼玉 | 大東文化大学 | 60 | |
| | | 53 | |
| | | 77 | |

近年の大学界をけん引する強豪チームであり、多くのBリーグ選手を輩出する。春の関東選手権大会では準優勝となったが、今年度のインカレにおいて3回目となる優勝を果たした。天皇杯では関東ブロックのセカンドラウンドで1位となり出場権を獲得。攻防ともに泥臭くやり抜き、社会人チーム、Bリーグクラブに挑戦する。

2C
ネプフィ ケルビンシেমリー
身長 198cm
生年月日 2006/1/30
出身校 開志国際高等学校


4SG
佐伯 峻介
サエキ リョウスケ
身長 186cm
生年月日 2003/5/4
出身校 土浦日本大学高等学校


7C
境 アリーム
サイカイ アリーム
身長 198cm
生年月日 2004/7/13
出身校 開志国際高等学校


8SF/PF
齋藤 蓮人
サイトウ レント
身長 191cm
生年月日 2005/11/29
出身校 京都両洋高等学校


10SF
堀内 星河
ホリウチ セイガ
身長 188cm
生年月日 2004/8/16
出身校 実践学園高等学校


15SG
小川 瑛次郎
オガワ エイジロウ
身長 187cm
生年月日 2005/10/1
出身校 羽黒高等学校


16SG
八重樫 ショーン龍
ヤエガシ ショーンリュウ
身長 185cm
生年月日 2004/10/6
出身校 仙台大学附属明成高等学校


22PG
内藤 晴樹
ナイトウ ハルキ
身長 188cm
生年月日 2004/6/7
出身校 仙台大学附属明成高等学校


25PF/C
モンガ バンザ ジョエル
身長 202cm
生年月日 2004/12/6
出身校 別府満都学園高等学校


30PG
佐古 竜誠
サコリュウセイ
身長 178cm
生年月日 2004/2/26
出身校 呉港高等学校


32SF
内田 悠介
ウチダ ユウセイ
身長 195cm
生年月日 2006/6/29
出身校 延岡学園高等学校


37PG
南澤 空
ミナミサワ エア
身長 167cm
生年月日 2005/5/25
出身校 実践学園高等学校


39SF
奥山 誠海
オウヤマ マサミ
身長 185cm
生年月日 2004/1/6
出身校 正智深谷高等学校


42PF
ウィリアムス ショーン莉音
ウィリアムス ショーンマリオン
身長 198cm
生年月日 2005/5/22
出身校 仙台大学附属明成高等学校


72PG/SG
レスリー マイカ瑛
レスリー マイカアキラ
身長 183cm
生年月日 2004/5/12
出身校 延岡学園高等学校


99SF/PF
ロイ 優太郎
ロイ ユウタロウ
身長 191cm
生年月日 2006/2/1
出身校 市立習志野高等学校


STAFF

| | | | |
|---|-----------------|----------------|---------------|
| HEAD COACH | ヘッドコーチ | アシスタントコーチ | アシスタントコーチ |
|  | 網野 友雄 アミノトモオ | 丹尾 久カ タンオ ヒサチカ | 渡邊 光 ワタナベ ヒカリ |
| トレーナー | アシスタントコーチ | アシスタントコーチ | マネージャー |
| 仲村 渠 容 ナカンドカリ ヨウ | 竹内 和幸 タケウチ カズユキ | 平 ひなた タイラ ヒナタ | |
| アシスタントコーチ | アシスタントコーチ | マネージャー | |
| 田中 紘介 タナカ コウスケ | 高堂 信虎 タカドウ ノブトラ | 小松 ねいろ コマツ ネイロ | |



千葉ジェッツ

B1リーグ4位

天皇杯最高成績

優勝
(2022、23年度)

トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

天皇杯優勝5回、Bリーグ優勝1回、EASL優勝1回を誇る名門チーム。天皇杯では2017～19年度に3連覇、2023、24年度に2連覇を達成している。今季のBリーグの順位は19勝4敗でB1東地区 1位。富樫勇樹、渡邊雄太、原修太らワールドカップ予選Window1に出場した日本代表選手を軸に、外国籍選手らが得点とリバウンドでチームに貢献。期待の若手、瀬川琉久のパフォーマンスにも注目したい。今シーズンのB1リーグでの成績は、1試合平均で得点82.0点 (7位)、失点74.6点 (1位)、リバウンド41.4本 (1位)、3ポイント成功率36.3% (2位)、3ポイント成功数10.0本 (5位) と全体的に高いスタッツをたたき出しており、総合力が高いチームだ。

1 SF/PF

渡邊 雄太

ワタナベ ユウタ

身長 206 cm
生年月日 1994/10/13

出身校 ジョージ・ワシントン大学



2 PG

富樫 勇樹

トガシ ユウキ

身長 167 cm
生年月日 1993/7/30

出身校 モントロス・クリスチャン高校



4 SG/SF

田代 直希

タシロ ナオキ

身長 188 cm
生年月日 1993/6/24

出身校 専修大学



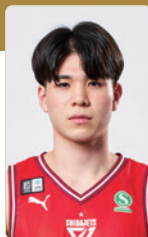
5 PG

瀬川 琉久

セガワ リク

身長 185 cm
生年月日 2006/8/14

出身校 東山高高等学校



6 SG

菅野 ブルース

カンノ ブルース

身長 200 cm
生年月日 2003/5/6

出身校 ステッソン大学



8 SF/PF

ナシール・リトル

身長 199 cm
生年月日 2000/2/11

出身校 ノースカロライナ大学チャペルヒル校



9 SG

二上 耀

フタガミ ヒカル

身長 190 cm
生年月日 1999/4/13

出身校 筑波大学



10 SF/PF

ディー・ジェイ・ホグ

身長 207 cm
生年月日 1996/9/3

出身校 テキサスA&M大学



11 PG

西村 文男

ニシムラ フミオ

身長 177 cm
生年月日 1986/9/24

出身校 東海大学



12 SF

金近 廉

カネチカレン

身長 197 cm
生年月日 2003/3/11

出身校 東海大学



25 PF

荒尾 岳

アラオ ガク

身長 198 cm
生年月日 1987/1/15

出身校 青山学院大学



31 SG/SF

原 修太

ハラ シュウタ

身長 187 cm
生年月日 1993/12/17

出身校 国士館大学



44 PF/C

加藤 ダニエル

カトウ ダニエル

身長 204 cm
生年月日 2004/8/20

出身校 ハーフォードコミュニティカレッジ



STAFF

HEAD COACH



ヘッドコーチ

トレヴァー・グリーソン

トップアシスタントコーチ

小川 伸也 オガワ シンヤ

アシスタントコーチ

稲垣 敦 イナガキ アツシ

アシスタントコーチ

半杭 隆治 ハンガイ リュウジ

プレイヤーディベロップメントコーチ

デイビッド・マクルーア

アシスタントコーチ

内藤 央哉 ナイトウ ヒロヤ

通訳

阿部 桃二香 アベ モニカ

ディレクター・オブ・アスレティックトレーニング&パフォーマンス

櫻井 真哉 サクライ シンヤ

ヘッドマネージャー

山口 真衣 ヤマガチ マイ

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



琉球ゴールデンキングス

B1リーグ2位

天皇杯最高成績

優勝(2024年度)



トップリーグ推薦枠(B1・2リーグ、B3リーグ)

昨年の天皇杯では、3年連続となる決勝の舞台でアルバルク東京を60-49で下し、“3度目の正直”で悲願の初優勝へとたどり着いた。また、Bリーグでは2022-23シーズンに優勝、地区優勝は7回を数える強豪。今シーズンのB1リーグ順位は16勝7敗で西地区4位。開幕からのスタートダッシュには遅れたが、ガードの岸本隆一、ウイングのヴィック・ロー、インサイドのジャック・クーリーを軸にチーム力を積み上げており、厚い選手層で天皇杯連覇を狙う。今シーズンもB1リーグでは1試合平均失点75.4点(3位)、リバウンド41.3本(2位)とディフェンス志向なスタイルで戦っている。3ポイント成功率 33.6%(9位)、3ポイント成功数 9.7本(7位)がさらに上がってくると、本来の強さが出てくるだろう。

| | | | |
|---|---|---|--|
| 2 PG 小針 幸也 コバリ コウヤ 身長 172 cm 生年月日 1999/5/18 出身校 神奈川大学 | 4 SF/PF ヴィック・ロー 身長 201 cm 生年月日 1995/12/19 出身校 ノースウエスタン大学 | 8 SF/PF 佐土原 遼 サドハラ リョウ 身長 192 cm 生年月日 1999/10/24 出身校 東海大学 | 10 PG/SG 荒川 颯 アラカワ ハヤテ 身長 182 cm 生年月日 1997/7/25 出身校 拓殖大学 |
| 14 PG/SG 岸本 隆一 キシモト リュウイチ 身長 176 cm 生年月日 1990/5/17 出身校 大東文化大学 | 15 SG 松脇 圭志 マツワキ ヨシユキ 身長 185 cm 生年月日 1997/5/15 出身校 日本大学 | 17 PG 崎濱 秀斗 サキハマ シュウト 身長 178 cm 生年月日 2005/5/8 出身校 セントトーマスモアスクール | 18 SG 脇 真大 ワキ マサヒロ 身長 193 cm 生年月日 2002/3/11 出身校 白鷲大学 |
| 27 PF/C ウィタカ ケンタ 身長 202 cm 生年月日 1997/12/15 出身校 青山学院大学 | 34 PG/SG 小野寺 祥太 オノデラ ショウタ 身長 182 cm 生年月日 1994/11/6 出身校 県立盛岡南高等学校 | 45 C ジャック・クーリー 身長 206 cm 生年月日 1991/4/12 出身校 ノートルダム大学 | 47 PG 平良 彰吾 タイラ ショウゴ 身長 170 cm 生年月日 1997/4/2 出身校 拓殖大学 |
| 53 C アレックス・カーク 身長 211 cm 生年月日 1991/11/4 出身校 ニューメキシコ大学 | 77 SG/SF 佐取 龍之介 サトリ リュウノスケ 身長 187 cm 生年月日 2006/9/30 出身校 県立豊見城高等学校 | | |

STAFF

| | | | |
|--|---|---|---|
| HEAD COACH  | ヘッドコーチ 桶谷 大 オケタニ ダイ | アシスタントコーチ アンソニー・マクヘンリー | ストrengths&コンディショニングコーチ 畠 孝洋 ウネバサミ タカヒロ |
| アシエイトヘッドコーチ 佐々 宜央 サッサ ノリオ | アシスタントコーチ 穂坂 健祐 ホサカ ケンスケ | ビデオコーディネーター 平田 隆樹 ヒラタ リュウキ | アスレティックトレーナー 平良 陸 タイラ リク |
| アシスタントコーチ 穂坂 健祐 ホサカ ケンスケ | スポーツパフォーマンスディレクター 渡部 賢一 ワタベ ケンイチ | アシスタントマネージャー 新山 岬 シンヤマ ミサキ | |

CAP キャプテン 外 外国籍 帰 帰化



ブロック代表枠

セカンドラウンド結果(ベスト4以上)

| | | | |
|------|--------------|----|--------|
| 福岡1位 | 日本経済大学 | 84 | |
| 沖縄2位 | CHECKMATE | 71 | |
| 沖縄1位 | 沖縄ゼネラルグループ | 83 | 日本経済大学 |
| 福岡2位 | 九州電力アーティサonz | 78 | |
| | | 64 | |
| | | 88 | |

今年度のインカレは予選ブロックから勝ち上がり、初のベスト4進出を果たした。九州勢としては29年ぶり2度目（1996年度／九州産業大学）の快挙。天皇杯でも九州ブロックでのセカンドラウンドを勝ち抜き、2014年度以来となるファイナルラウンド出場。今大会では堅固なディフェンスで「打倒プロチーム」を目指す。

7 PF/C

島袋 カイキ

シマブクロ カイキ

身長 186 cm

生年月日 2004/8/5

出身校 岡山学芸館高等学校



10 PF/C

ルーサー ジャスティン 泰良

ルーサー ジャスティン タイラ

身長 190 cm

生年月日 2005/6/4

出身校 西海学園高等学校



11 PG

大庭 涼太郎

オオバリオウタロウ

身長 175 cm

生年月日 2005/5/21

出身校 別府満都学園高等学校



12 SF/PF

組崎 マテウス

クミザキ マテウス

身長 190 cm

生年月日 2004/5/21

出身校 誠信高等学校



13 PG

小村 琉羅

コムラ ルラ

身長 170 cm

生年月日 2004/8/13

出身校 福岡第一高等学校



14 PG

森田 翔星

モリタ ショウセイ

身長 164 cm

生年月日 2006/3/7

出身校 祐誠



18 SF

坂本 龍祐

サカモト リョウスケ

身長 185 cm

生年月日 2005/11/18

出身校 県立佐賀東高等学校



20 PG/SG

浅田 竜輝

アサダ リュウキ

身長 178 cm

生年月日 2005/10/18

出身校 八女学院高等学校



22 SG/SF

森 駿翔

モリ シュント

身長 185 cm

生年月日 2005/2/22

出身校 八女学院高等学校



25 PF

ガイ アリュ

身長 191 cm

生年月日 2007/2/2

出身校 市立柏高等学校



28 SG

齊藤 海斗

サイトウ カイト

身長 178 cm

生年月日 2006/7/25

出身校 福岡第一高等学校



35 PF

ボディアン ブーバカー ベノイット

身長 195 cm

生年月日 2005/9/25

出身校 柳ヶ浦高等学校



58 PF/C

伊野波 紘泰

イノハ ヒロタ

身長 186 cm

生年月日 2006/3/29

出身校 県立首里東高等学校



73 PG

渡邊 天斗

ワタナベ タクト

身長 168 cm

生年月日 2005/6/18

出身校 県立日田高等学校



86 PF

是久 春道

コレヒサ ハルミチ

身長 185 cm

生年月日 2005/5/23

出身校 安城学園高等学校



91 SF/PF

竹谷 渉

タケヤ ワタル

身長 182 cm

生年月日 2004/5/28

出身校 生光学園高等学校



STAFF



HEAD COACH

監督・部長

片桐 章光

カタギリ アキミツ

コーチ

案浦 知仁

アンノウラトモヒト

トレーナー

熊谷 顕

クマガイ アキラ

学生コーチ

竹田 暁

タケダ アキ

主務

伴 歩果

バン ホノカ

学生コーチ

阪本 裕紀

サカモト ヒロキ

学生コーチ

大園 卓巳

オオゾノ タクミ

学生コーチ

星野 佑月

ホシノ ユヅキ

学生コーチ

扇 明史

オウギ アキフミ



横浜エクセレンス

B3リーグ1位

天皇杯最高成績

ベスト8
(2014年度)



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨シーズン、B3リーグ王者に輝いた横浜エクセレンス。東京エクセレンス時代の2018-19シーズン以来2度目、横浜移転後では初となる優勝を手にし、念願のB2昇格を果たした。その結果、天皇杯にはB3枠として出場権を得ている。B2に昇格したチームをリードするのは、インサイドのエライジャ・ウィリアムスとベンジャミン・ローソン。大橋大空、上良潤起らガード陣の奮闘も光る。今シーズンのB2リーグの順位は15勝9敗で東地区3位。リーグトップの1試合平均得点(83.3点)を誇り、同3位の3ポイント成功率(31.0%)、同2位の3ポイント成功数(10.0本)が武器となる。ディフェンス面でも失点79.5点(3位)、リバウンド40.1本(2位)と安定した戦いを見せている。

| | | | |
|--|--|---|---|
| 0 PG 板橋 真平 イタバシ シンパイ 身長 168 cm 生年月日 1998/12/28 出身校 白鷲大学 | 5 PG ディクソンジュニア タリキ 身長 181 cm 生年月日 1998/9/8 出身校 日本体育大学 | 8 PG 西山 達哉 ニシヤマ タツヤ 身長 172 cm 生年月日 1988/7/20 出身校 駒澤大学 | 10 PG/SG 永野 威旺 ナガノ イオ 身長 178 cm 生年月日 2002/7/7 出身校 名古屋学院大学 |
| 11 SF/PF 木下 大南帆 キノシタ ヒロナオ 身長 192 cm 生年月日 2002/9/1 出身校 日本経済大学 | 13 PG 大橋 大空 オオハシ ヒロタカ 身長 165 cm 生年月日 1999/4/5 出身校 ブルーフィールド州立大学 | 18 SG クーリバリ セリンムルタラ 身長 188 cm 生年月日 2007/3/4 出身校 千葉ジェッツふなばしU18 | 20 SF ザック・モーア 身長 198 cm 生年月日 1997/3/26 出身校 プリディッシュコロンビア大学 |
| 21 PF エライジャ・ウィリアムス 身長 201 cm 生年月日 1998/9/22 出身校 ノースウエスタン大学 | 33 PG/SG 杉山 裕介 スギヤマ ユウスケ 身長 183 cm 生年月日 2000/10/11 出身校 白鷲大学 | 34 PF/C ベンジャミン・ローソン 身長 216 cm 生年月日 1995/6/12 出身校 ウェスタンケンタッキー大学 | 93 PG/SG 上良 潤起 ウエラ ジュンキ 身長 187 cm 生年月日 1997/8/26 出身校 九州産業大学 |

STAFF

| | | | |
|-----------------------|--|--------------------------------------|---|
| HEAD COACH | ヘッドコーチ 河合 竜児 カワイ リュウジ | トレーナー 富樫 司 トガシ ツカサ | マネージャー 川本 貴和子 カワモト キワコ |
| | アシスタントコーチ 玉城 理規 タマキ リキ | トレーナー 大野 夢実 オオノ ユメミ | その他 トレイ・ボイド |
| | アシスタントコーチ 高田 真登 タカダ マサト | 通訳 安喰 淳平 アンジキ ジュンペイ | その他 カリム・エゼディン |

CAP キャプテン 外 外国籍 帰化

ライジングゼファー福岡

天皇杯最高成績
ファイナルラウンド
初出場



トップリーグ推薦枠 (B1・2リーグ、B3リーグ)

昨シーズンはB2リーグの3位決定戦で信州ブレイブウォリアーズに敗れて4位。B1昇格には届かなかったが、天皇杯ファイナルラウンドの出場権を勝ち取った。チームの中心であるジャスティン・バーレルが昨年12月12日にインジュアリーリスト入りしたため、デイボン・リードらが得点源としてけん引していく。彼ら得点源を束ねるのが、ガードの青木龍史と村上駿斗だ。今シーズンのB2リーグでの順位は10勝14敗でB2西地区5位となっているが、1試合平均得点73.1点 (リーグ3位)、失点78.4点 (2位)、リバウンド36.0本 (3位)、3ポイント成功率32.0% (2位) とポテンシャルは十分なだけに、天皇杯でステップアップのきっかけをつかみたい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>0 PG</p> <p>曾田 圭佑 アイタ ケイスケ</p> <p>身長 183cm 生年月日 1995/3/29 出身校 明治大学</p> | <p>5 SF</p> <p>デイボン・リード</p> <p>身長 198cm 生年月日 1995/6/11 出身校 マイアミ大学</p> | <p>7 SF</p> <p>西川 貴之 ニシカワ タカノブ</p> <p>身長 196cm 生年月日 1992/1/14 出身校 明治大学</p> | <p>8 PG/SG</p> <p>青木 龍史 アオキ リュウジ</p> <p>身長 178cm 生年月日 1998/3/19 出身校 ローズ・ハルマン工科大学</p> |
| <p>10 C</p> <p>スン スーヤオ</p> <p>身長 210cm 生年月日 1996/9/13 出身校 カリフォルニア州立大学ノースリッジ校</p> | <p>12 SF</p> <p>寒竹 隼人 カンタケ ハヤト</p> <p>身長 194cm 生年月日 1986/8/1 出身校 拓殖大学</p> | <p>20 PG</p> <p>中谷 麻登 ナカタニ マアト</p> <p>身長 177cm 生年月日 2001/9/21 出身校 日本経済大学</p> | <p>23 PG/SG</p> <p>村上 駿斗 ムラカミ シュント</p> <p>身長 185cm 生年月日 1996/2/17 出身校 サウスセント高校</p> |
| <p>28 PG</p> <p>井手 拓実 イデ タクミ</p> <p>身長 174cm 生年月日 1999/10/12 出身校 日本体育大学</p> | <p>32 SG</p> <p>狩野 祐介 カリノ ユウスケ</p> <p>身長 184cm 生年月日 1990/4/18 出身校 東海大学</p> | <p>33 SG/SF</p> <p>加藤 寿一 カトウトシカズ</p> <p>身長 192cm 生年月日 1993/10/5 出身校 法政大学</p> | |

STAFF

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>HEAD COACH</p> <p></p> | <p>ヘッドコーチ</p> <p>福島 雅人 フクシマ マサト</p> | <p>ビデオアナリスト</p> <p>植野 翔太 ウエノ ショウタ</p> | <p>アスレティックトレーナー</p> <p>江藤 鈴 エトウ リン</p> |
| | <p>アシスタントコーチ</p> <p>神原 裕司 カンバラ ユウジ</p> | <p>マネージャー</p> <p>大森 はるか オオモリ ハルカ</p> | <p>アスレティックトレーナー</p> <p>畑田 広也 ハタダ コウヤ</p> |
| | <p>アシスタントコーチ</p> <p>鈴木 大 スズキ ダイ</p> | <p>ヘッドアスレティックトレーナー</p> <p>田鍋 保子 タナベ ヤスコ</p> | <p>通訳兼練習生</p> <p>松岡 仰司 マツオカ コウジ</p> |



ブロック代表枠

セカンドラウンド結果(ベスト4以上)

| | | | |
|------|-----------------|----|-----------------|
| 大阪2位 | BLACK JACK | 67 | |
| 京都2位 | 東山高等学校 | 84 | |
| 京都1位 | 同志社大学 | 79 | |
| 和歌山 | ONELYS wakayama | 80 | |
| | | 68 | ONELYS wakayama |
| | | 73 | |

Bリーグ参入を目指し2021年に設立されたクラブ。昨年度の全日本社会人バスケットボールプレミアムチャンピオンシップ3位、今年度からはトップカテゴリーのSB1リーグに昇格して着実に実績を残し、実力を付けてきている。インサイド、アウトサイドのバランスの良い攻撃で「今年こそブロック撃破」と意気込む。

| | | | | | | | |
|---|--|---|--|--|--|--|--|
| 2 PG 大戸 一輝 <small>オト カズキ</small> <small>身長 173cm</small> <small>生年月日 1991/12/30</small> <small>出身校 天理大学</small> | | 4 SF/PF 森田 拓磨 <small>モリタ タクマ</small> <small>身長 195cm</small> <small>生年月日 2000/12/25</small> <small>出身校 大阪経済大学</small> | | 7 SG/SF 中川 泰志 <small>ナカガワ タイシ</small> <small>身長 190cm</small> <small>生年月日 2002/9/22</small> <small>出身校 拓殖大学</small> | | 8 PG/SG 末廣 カ久 <small>スエヒロ リキヒサ</small> <small>身長 185cm</small> <small>生年月日 2000/11/27</small> <small>出身校 白鷲大学</small> | |
| 13 SG 福井 穂 <small>フワイ ミノリ</small> <small>身長 179cm</small> <small>生年月日 2001/10/15</small> <small>出身校 大阪国際大学</small> | | 14 C マドウアバム チュクウディエベレ <small>身長 206cm</small> <small>生年月日 1991/3/19</small> <small>出身校 イェシーパー大学</small> | | 15 C 山本 浩太 <small>ヤマモト コウタ</small> <small>身長 206cm</small> <small>生年月日 1998/2/13</small> <small>出身校 東海大学</small> | | 21 SG/SF 松田 優大 <small>マツダ ユウダイ</small> <small>身長 190cm</small> <small>生年月日 2000/8/31</small> <small>出身校 上武大学</small> | |
| 30 C ダフ ジョーン <small>身長 208cm</small> <small>生年月日 1999/7/8</small> <small>出身校 ウェストクリフ大学</small> | | 34 PG/SG 山本 仁也 <small>ヤマモト ジンヤ</small> <small>身長 184cm</small> <small>生年月日 2001/11/1</small> <small>出身校 大阪国際大学</small> | | 36 PG 木下 岳人 <small>キノシタ ガクト</small> <small>身長 170cm</small> <small>生年月日 2002/7/1日</small> <small>出身校 近畿大学</small> | | | |

STAFF

HEAD COACH



ヘッドコーチ

上田 頼飛 ウエダ ヨリタカ

ファーストアシスタントコーチ

佐藤 浩貴 サトウ ヒロタカ

マネージャー

山崎 正恵 ヤマサキ マサエ

マネージャー

前川 佳祐 マエカワ ケイスケ

マネージャー

嘉数 啓希 カカズ ヒロキ

トレーナー

西村 航 ニシムラ ワタル

トレーナー

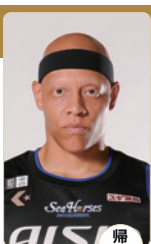
吉村 裕美 ヨシムラ ヒロミ



トップリーグ推薦枠(B1・2リーグ、B3リーグ)

前身のアイシン、アイシン三河時代に天皇杯で9回の優勝、そのうち4連覇を2回達成している名門チーム。Bリーグ創設後は天皇杯ではベスト4(3回)が最高成績、B1リーグでは地区優勝を2回遂げている。チームの主力は得点源のダバンテ・ガードナー、ジェイク・レイマン、日本代表の西田優大。彼らを軸に内外角に多彩な攻撃力を展開し、今シーズンのBリーグの順位は16勝7敗で西地区3位。1試合平均得点85.2点はリーグ1位。3ポイント成功率34.8%(5位)、3ポイント成功数10.6本(3位)と攻撃力はリーグ屈指。失点78.8点(6位)とディフェンス力もあり、充実の戦力でBリーグ創設後初となる天皇杯制覇を目指す。

1 SF/PF

トーマス・
ケネディ身長 201 cm
生年月日 1987/5/17
出身校 デトロイト
メルシー大学

5 SG/SF

元澤 誠

モトザワ セイ
身長 184 cm
生年月日 2000/10/26
出身校 東海大学

7 PG

長野 誠史

ナガノ サトシ
身長 175 cm
生年月日 1995/7/7
出身校 東海大学九州

9 PG

平 寿哉

タイラトシヤ
身長 176 cm
生年月日 2005/11/7
出身校 桜丘高等学校

10 SF/PF

ジェイク・
レイマン身長 206 cm
生年月日 1994/3/7
出身校 メリーランド大学

11 PG

久保田 義章

クボタ ヨシアキ
身長 175 cm
生年月日 1997/10/5
出身校 九州共立大学

13 SG/SF

須田 侑太郎

スダ ユウタロウ
身長 190 cm
生年月日 1992/1/3
出身校 東海大学

16 SG

西田 公陽

ニシダ コウヨウ
身長 184 cm
生年月日 2001/6/5
出身校 東海大学

18 SG/SF

角野 亮伍

スミノ リョウゴ
身長 192 cm
生年月日 1996/6/14
出身校 サザンニューハ
ンブシャー大学

19 SG/SF

西田 優大

ニシダ ユウダイ
身長 190 cm
生年月日 1999/3/13
出身校 東海大学

27 SG

石井 講祐

イシイ コウスケ
身長 182 cm
生年月日 1987/9/29
出身校 東海大学

32 C

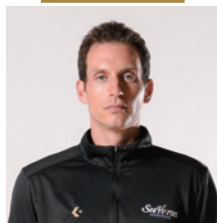
シェーファー
アヴィ幸樹シェーファー アヴィコウキ
身長 206 cm
生年月日 1998/1/28
出身校 ジョージア工科
大学

54 PF/C

ダバンテ・
ガードナー身長 203 cm
生年月日 1991/9/2
出身校 マーケット大学

STAFF

HEAD COACH



ヘッドコーチ

ライアン・リッチマン

アシスタントコーチ

塩野 竜太

シオノ リョウタ

メディカルトレーナー

鈴木 俊也

スズキ トシヤ

アシスタントコーチ/オンコート通訳

水野 宏太

ミズノ コウタ

ヘッドビデオコーディネーター/データアナリスト

松浦 なずな

マツウラ ナズナ

オペレーションディレクター

坊野 憲吾

ボウノ ケンゴ

アシスタントコーチ

大久保 愛樹

オオクボ アイキ

パフォーマンスディレクター

西脇 崇量

ニシワキ タカカズ

マネージャー/通訳

落合 明子

オチアイ アキコ

天皇杯

EMPEROR'S CUP BASKETBALL 2025-26

天皇杯の記録

●前回大会（第100回大会／2024年度）の記録



天皇杯ファイナルラウンド

琉球ゴールデンキングスが100回記念大会を制し念願の初賜杯

全都道府県代表の47チームにB1の24チーム、B2の14チーム、そしてB3の17チームを加えた102チームが参加した第100回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会は、2024年9月14日・15日の1次ラウンドで幕を開け、2025年3月15日のファイナルまで熱戦が繰り広げられた。王座に就いたのは、3度目のファイナル進出でついに念願をかなえた琉球ゴールデンキングス。記念すべき100回を迎えた大会で、賜杯は史上初めて沖縄の地に舞い降りたのであった。

3次ラウンドに名を連ねた10チームは前年に続き全てB1のプロクラブで、概ね順当と言える勝ち上がりだったかもしれない。しかし、高校生チームとして唯一2次ラウンド進出を果たした柳ヶ浦高校や、2次ラウンドでB1の大阪エヴェッサを下して3次ラウンド進出に王手をかけるところまで勝ち残った当時B2のアルティエリ千葉など、上位カテゴリーを脅かす善戦・健闘を見せたチームも多かった。

ファイナルは琉球とアルバルク東京の対戦となったが、A東京もそうしたチームの一つといえる。セミファイナルでは、前年B1を制覇した広島ドラゴンフライズに85-75の勝利。2014年（当時の呼称はトヨタ自動車アルバルク東京）以来11年ぶりにファイナル進出を果たし、2012年（同トヨタ自動車アルバルク）以来の優勝を狙える機会を手にした。一方の琉球は、三遠ネオフェニックスとのセミファイナルを80-67でモノにしてファイナル進出を決めた。琉球はこれで3年連続3回目のファイナルの舞台。3度目の正直で勝利をつかみ、千葉ジェッツに69-117という屈辱的大敗を喫した前年ファイナルの悔しさを晴らすように燃えていた。

会場は、2016年にBリーグ創設シーズンの開幕節で両チームが相まみえたときと同じ国立代々木競技場第一体育館。そのときはA東京が連勝を収めたが、以来Bリーグにおける直接対決は13勝13敗とまったくの五分。日本一が懸かる10年越しのドラマに、最高の舞台が用意さ

れた。

試合が始まると、琉球は序盤にアレックス・カークがブロックショットに3Pシュートにと攻防両面で活躍。堅固なチームディフェンスも威力を発揮し、ロースコアな展開となった1Qを15-10とリードして終える。2Qに入り、A東京も安藤周人が得意の3Pシュートでチームを鼓舞し、追撃をけん引。しかし琉球は、前半だけで13本のリバウンドをつかんだジャック・クローリーの奮闘などフィジカルな戦いで、31-24とさらにリードを広げて前半を終えた。

後半も出だしは琉球がクローリーとカークの得点で35-24としてペースをつかむ。後がないA東京はここでタイムアウト。これが奏功し、A東京はセバスチャン・サイズの得点を皮切りに9-0のランで35-33まで詰め寄った。しかし琉球は慌てず立て直し、徐々に流れをつかんでいく。3Q終了間際にはヴィック・ローの深い位置からの3Pシュートも決まり46-36。再び点差を2桁に戻して最終クォーターに突入すると、一度は53-49と4点差まで詰め寄られながら小野寺祥太や岸本隆一ら勝負強いバックコート陣がビッグショットを決めてA東京の猛攻をしのぎ切り、60-49で勝利した。

キャプテンを務める琉球・小野寺は、「3年連続で出場させていただいて、今日ようやく勝てたことは本当にうれしいです」と悲願達成を素直に喜んだ。この試合で10得点、15リバウンドのダブルダブルを記録して大会MVPに選ばれたクローリーは、「ディフェンスの激しい戦いになった中でしっかりと勝ちをつかむことができて、うれしく思います」と初優勝に笑顔。また、沖縄出身で琉球のチーム内でも2016年のBリーグ開幕節における敗戦を唯一の実体験として知る存在である岸本は、「沖縄一丸で勝ち切ることができました」と感慨深げに語っていた。

なお、大会ベストファイブには、MVPのクローリーのほか琉球からカークと脇真大、A東京から安藤とテブス海が選出された。



2024-25 第100回天皇杯 ファイナルラウンド全試合結果

1月8日(水) [クォーターファイナル]

| チーム名 | スコア | | | | |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-------|
| | 1st | 2nd | 3rd | 4th | Total |
| 三遠ネオフェニックス | 24 | 17 | 23 | 15 | 79 |
| 群馬クレインサンダーズ | 15 | 28 | 21 | 13 | 77 |

| | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|
| 千葉ジェッツ | 21 | 10 | 16 | 23 | 70 |
| アルバルク東京 | 19 | 19 | 18 | 19 | 75 |

2月5日(水) [セミファイナル]

| チーム名 | スコア | | | | |
|------------|-----|-----|-----|-----|-------|
| | 1st | 2nd | 3rd | 4th | Total |
| 広島ドラゴンフライズ | 20 | 30 | 10 | 15 | 75 |
| アルバルク東京 | 24 | 21 | 17 | 23 | 85 |

| | | | | | |
|-------------|----|----|----|----|----|
| 琉球ゴールデンキングス | 13 | 20 | 26 | 21 | 80 |
| 三遠ネオフェニックス | 14 | 27 | 16 | 10 | 67 |

3月15日(日) [ファイナル]

| チーム名 | スコア | | | | |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-------|
| | 1st | 2nd | 3rd | 4th | Total |
| アルバルク東京 | 10 | 14 | 12 | 13 | 49 |
| 琉球ゴールデンキングス | 15 | 16 | 15 | 14 | 60 |

決勝個人記録

● アルバルク東京 49 $\left(\begin{matrix} 10 - 15 \\ 14 - 16 \\ 12 - 15 \\ 13 - 14 \end{matrix} \right)$ 60 琉球 \bigcirc ゴールデンキングス

アルバルク東京

| No | S | 選手名 | PTS | 3P FG | | | 2P FG | | | FT | F | REBOUNDS | | | TO | AS | ST | BS | MIN |
|-----------|---|-------------|-----|-------|----|-------|-------|---|-----|----|----|----------|----|-----|----|----|----|----|--------|
| | | | | M | A | M | A | M | A | | | OR | DR | TOT | | | | | |
| 00 | | スティーブ・ザック | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 16:47 |
| 1 | | 岡本 飛電 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | DNP |
| 2 | | 大倉 竜太 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 06:02 |
| 3 | * | テープス 海 | 8 | 0 | 6 | 4 | 9 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | 4 | 0 | 5 | 0 | 1 | 32:26 |
| 9 | | 安藤 周人 | 12 | 4 | 7 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 4 | 6 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 20:22 |
| 10 | | ザック・バランスキー | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 04:07 |
| 11 | * | セバスチャン・サイズ | 11 | 1 | 3 | 4 | 9 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 26:22 |
| 13 | | 菊地 祥平 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | DNP |
| 21 | | 平岩 玄 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | DNP |
| 22 | * | ライオン・ロシター | 7 | 0 | 6 | 3 | 7 | 1 | 2 | 2 | 2 | 4 | 6 | 10 | 0 | 1 | 1 | 2 | 36:51 |
| 23 | * | レオナルド・メインデル | 6 | 2 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 4 | 1 | 3 | 4 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 32:28 |
| 25 | | 福澤 晃平 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 01:27 |
| 75 | * | 小酒部 泰暉 | 5 | 1 | 5 | 1 | 5 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 23:08 |
| HC / TEAM | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 2 | 7 | 2 | | | | | |
| 合計 | | | 49 | 8 | 32 | 12 | 38 | 1 | 4 | 17 | 14 | 23 | 37 | 6 | 11 | 4 | 3 | | 200:00 |
| | | | | 25% | | 31.6% | | | 25% | | | | | | | | | | |

琉球ゴールデンキングス

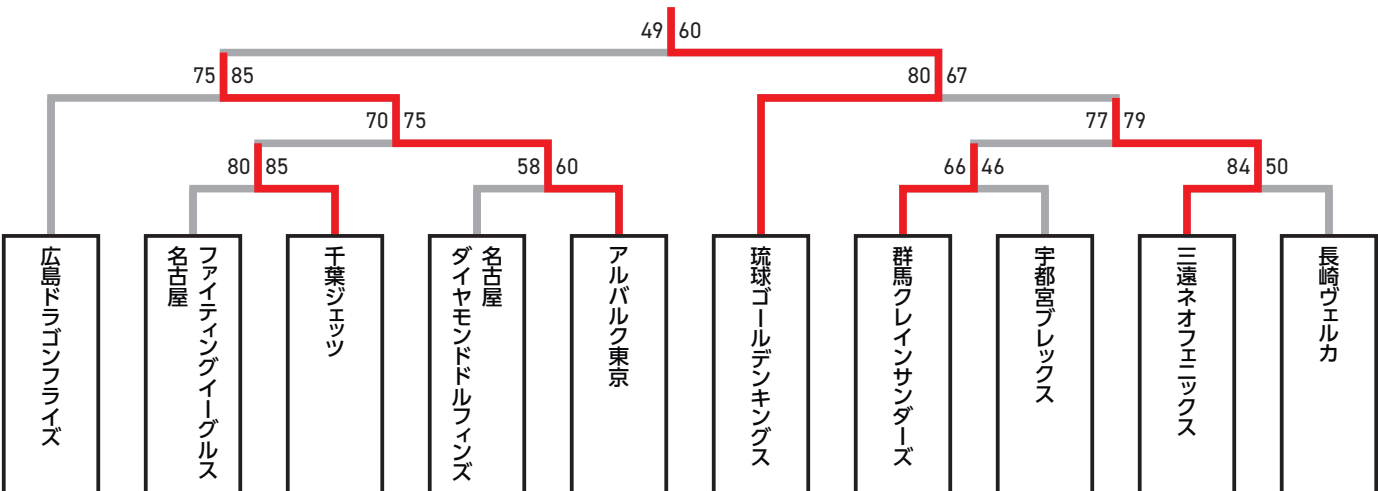
| No | S | 選手名 | PTS | 3P FG | | | 2P FG | | | FT | F | REBOUNDS | | | TO | AS | ST | BS | MIN |
|-----------|---|-----------|-----|-------|----|-------|-------|-------|----|----|----|----------|----|-----|----|----|----|----|--------|
| | | | | M | A | M | A | M | A | | | OR | DR | TOT | | | | | |
| 3 | | 伊藤 達哉 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 04:10 |
| 4 | * | ヴィック・ロー | 5 | 1 | 4 | 0 | 7 | 2 | 4 | 2 | 0 | 4 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30:27 |
| 8 | | 植松 義也 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | DNP |
| 10 | | 荒川 颯 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 02:51 |
| 12 | | ケヴェ・アルマ | 9 | 1 | 3 | 3 | 7 | 0 | 0 | 1 | 4 | 2 | 6 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 19:43 |
| 14 | * | 岸本 隆一 | 6 | 0 | 3 | 1 | 2 | 4 | 4 | 0 | 0 | 5 | 5 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 24:28 |
| 15 | | 松脇 圭志 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 13:14 |
| 18 | | 脇 真大 | 5 | 0 | 0 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 14:09 |
| 34 | * | 小野寺 祥太 | 5 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16:36 |
| 45 | * | ジャック・クワリー | 10 | 0 | 1 | 5 | 13 | 0 | 2 | 2 | 7 | 8 | 15 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 29:50 |
| 47 | | 平良 彰吾 | 5 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11:22 |
| 53 | * | アレックス・カーク | 15 | 1 | 1 | 6 | 10 | 0 | 0 | 0 | 5 | 5 | 10 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 33:10 |
| HC / TEAM | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 6 | 12 | 3 | | | | | |
| 合計 | | | 60 | 5 | 20 | 18 | 47 | 9 | 14 | 12 | 22 | 36 | 58 | 12 | 9 | 2 | 3 | | 200:00 |
| | | | | 25% | | 38.3% | | 64.3% | | | | | | | | | | | |

No: 背番号、S: スターター、PTS: 総得点、FG: フィールドゴール、M: 成功数、A: 試投数、%: シュート率、3P: 3ポイントシュート、2P: 2ポイントシュート、FT: フリースロー、F: ファウル、OR: オフェンス・リバウンド、DR: ディフェンス・リバウンド、TOT: リバウンド合計、TO: ターンオーバー、AS: アシスト、ST: スティール、BS: ブロックショット、MIN: 出場時間

■ 過去大会の記録

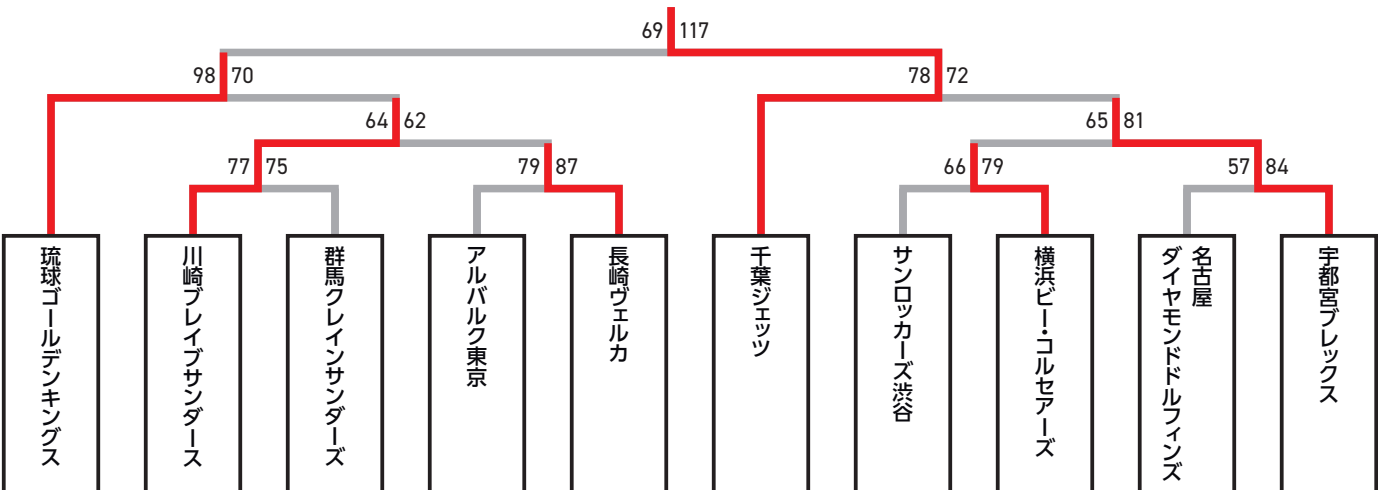
2024-25 第100回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会(3次ラウンド以降)

優勝 琉球ゴールデンキングス



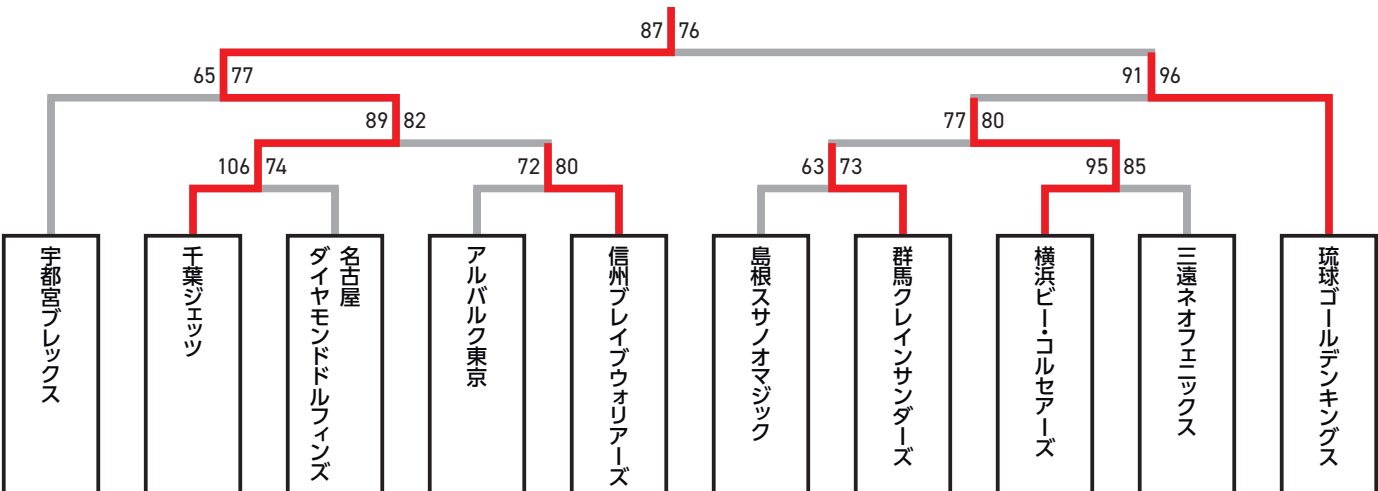
2023-24 第99回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会(3次ラウンド以降)

優勝 千葉ジェッツ



2023年 第98回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会(4次ラウンド以降)

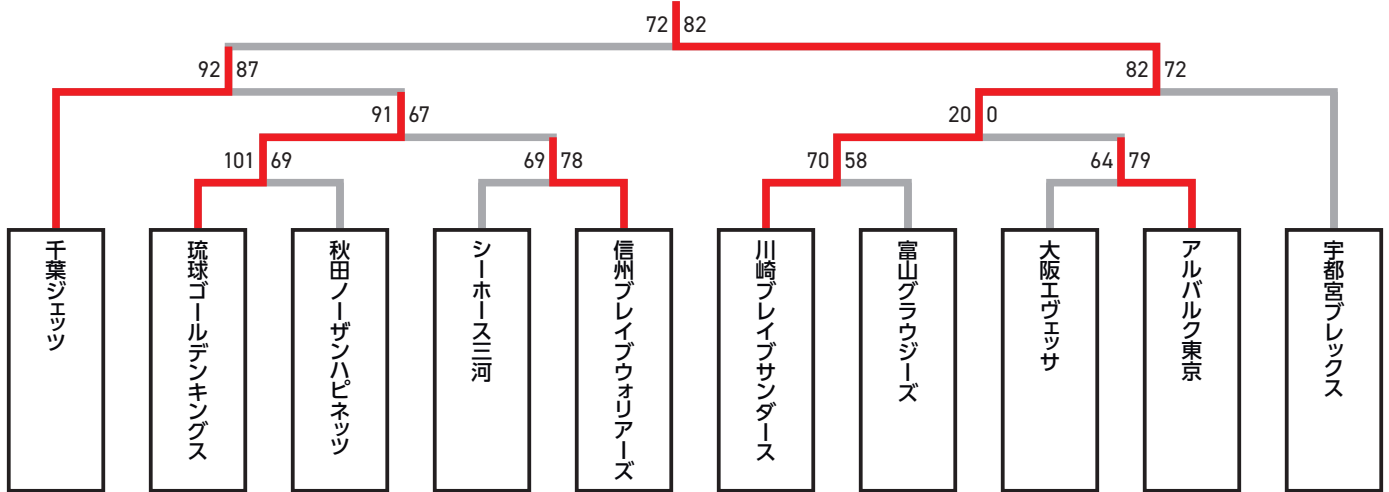
優勝 千葉ジェッツ



■ 過去大会の記録

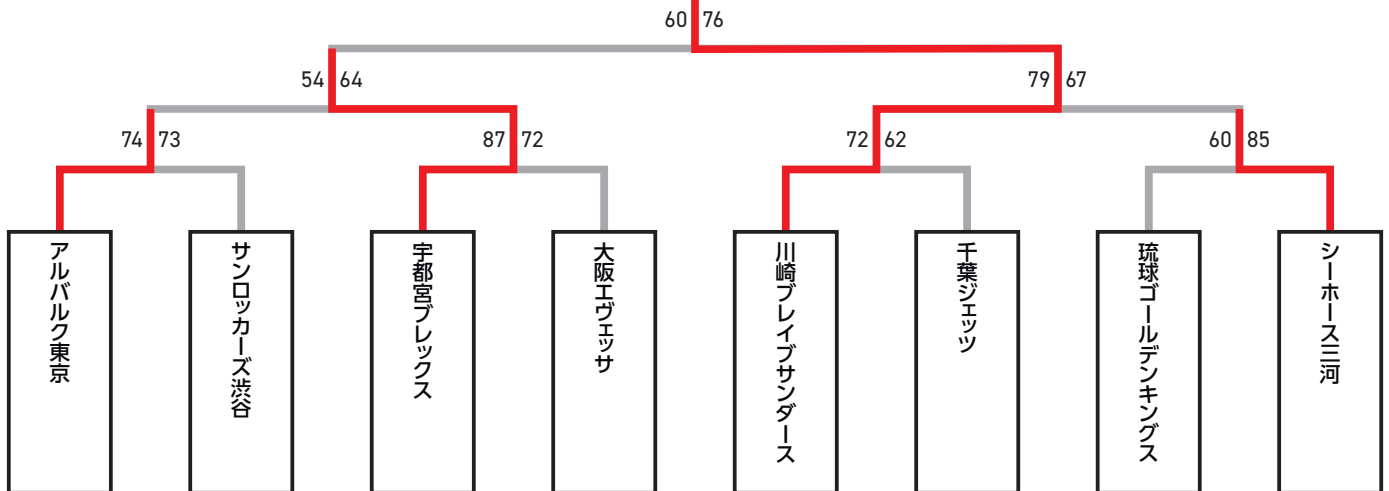
2022年 第97回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会(4次ラウンド以降)

優勝 川崎ブレイブサンダース



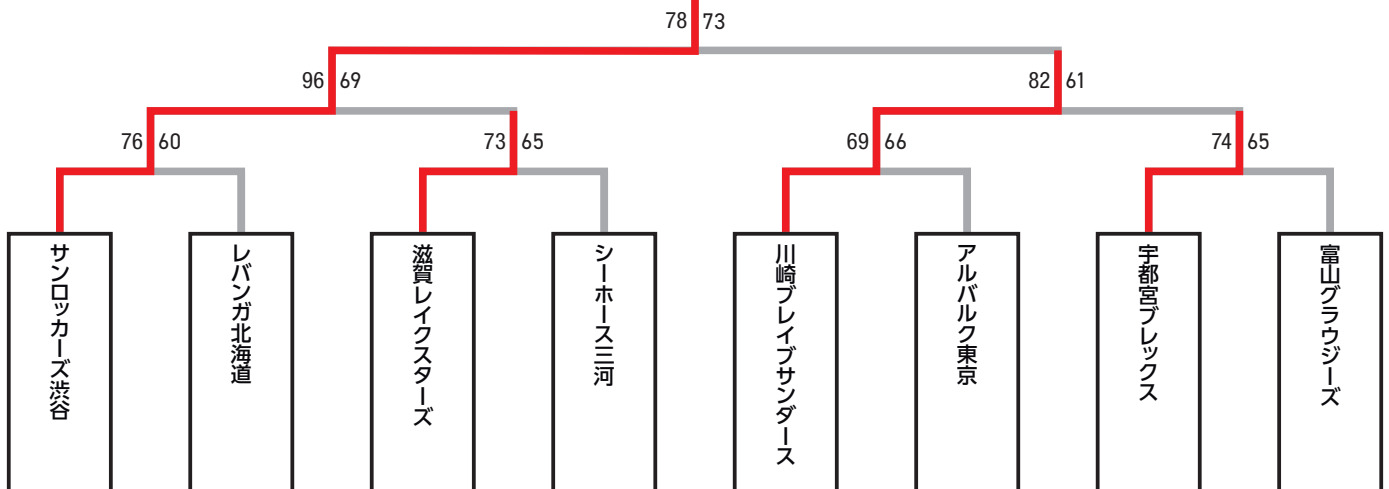
2021年 第96回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会(3次ラウンド以降)

優勝 川崎ブレイブサンダース



2020年 第95回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会(ファイナルラウンド)

優勝 サンロッカーズ渋谷



第100回大会MVP&ベスト5

脇 真大

琉球ゴールデンキングス #18

初受賞



アレックス・カーク

琉球ゴールデンキングス #53

初受賞



ジャック・クーリー

琉球ゴールデンキングス #45

共同通信社MVP

初受賞

大会ベスト5

初受賞



テーブス 海

アルパルク東京 #3

初受賞



安藤 周人

アルパルク東京 #6

初受賞



大会実施委員会 個人賞選考委員会選出／★＝共同通信社 MVP

| 回 | 年度 | 受賞者名(チーム名) ○内の数字は選出回数 | | | |
|-----|---------------|-----------------------|----------------------|------------------------|----------------------|
| 100 | 令和6年度2025年3月 | 脇 真大(琉球)① | ジャック・クーリー(琉球)①／★① | アレックス・カーク(琉球)① | テーブス 海(A東京)① |
| 99 | 令和5年度2024年3月 | 富樫 勇樹(千葉J)⑤／★③ | ジョン・ムーニー(千葉J)② | クリストファー・スミス(千葉J)① | 岸本 隆一(琉球)① |
| 98 | 令和4年度2023年3月 | 富樫 勇樹(千葉J)④／★② | 原 修太(千葉J)① | ジョン・ムーニー(千葉J)① | 今村 佳太(琉球)① |
| 97 | 令和3年度2022年3月 | 藤井 祐真(川崎)②／★① | ニック・ファジーカス(川崎)④ | マット・ジャニング(川崎)① | ジョシュ・ダンカン(千葉J)① |
| 96 | 令和2年度2021年3月 | 藤井 祐真(川崎)① | パブロ・アギラール(川崎)① | ジョーダン・ヒース(川崎)①／★① | 比江島 慎(宇都宮)② |
| 95 | 令和元年度2020年1月 | ペンドラマ 礼生(SR渋谷)①／★① | セバスチャン・サイズ(SR渋谷)① | ライアン・ケリー(SR渋谷)① | 辻 直人(川崎)② |
| 94 | 平成30年度2019年1月 | 富樫 勇樹(千葉J)②／★① | ギャビン・エドワーズ(千葉J)② | 遠藤 祐亮(栃木)① | ライアン・ロスター(栃木)② |
| 93 | 平成29年度2018年1月 | 西村 文男(千葉J)① | ギャビン・エドワーズ(千葉J)①／★① | 小野 龍猛(千葉J)② | ダニエル・オルトン(三河)① |
| 92 | 平成28年度2017年1月 | 富樫 勇樹(千葉J)① | タイラー・ストーン(千葉J)① | 小野 龍猛(千葉J)① | ニック・ファジーカス(川崎)② |
| 91 | 平成27年度2016年1月 | 金丸 晃輔(アイシン三河)② | 桜木 ジェイアール(アイシン三河)⑥ | 古川 孝敏(リンク栃木)① | ライアン・ロスター(リンク栃木)① |
| 90 | 平成26年度2015年1月 | 木下 博之(日立東京)③ | 竹内 譲次(日立東京)⑤ | 広瀬 健太(日立東京)① | ジョシュ・ハイトベルト(日立東京)① |
| 89 | 平成25年度2014年1月 | 辻 直人(東芝神奈川)① | ニック・ファジーカス(東芝神奈川)① | ジェフ・ギブズ(トヨタ東京)① | 岡田 優介(トヨタ東京)① |
| 88 | 平成24年度2013年1月 | 木下 博之(パナソニック)② | 金丸 晃輔(パナソニック)① | ジャミール・ワトキンス(パナソニック)① | 柏木 真介(アイシン)⑥ |
| 87 | 平成23年度2012年1月 | 竹内 公輔(トヨタ自動車)⑤ | フィリップ・リッチー(トヨタ自動車)① | 伊藤 大司(トヨタ自動車)① | 柏木 真介(アイシン)⑤ |
| 86 | 平成22年度2011年1月 | 竹内 公輔(アイシン)④ | 桜木 ジェイアール(アイシン)③ | 木下 博之(パナソニック)① | 永山 誠(パナソニック)② |
| 85 | 平成21年度2010年1月 | 柏木 真介(アイシン) ④ | 竹内 公輔(アイシン) ③ | 菅 裕一(日立) ① | 竹内 譲次(日立) ④ |
| 84 | 平成20年度2009年1月 | 柏木 真介(アイシン) ③ | 竹内 公輔(アイシン) ② | 桜木 ジェイアール(アイシン) ② | 竹内 譲次(日立) ③ |
| 83 | 平成19年度2008年1月 | 柏木 真介(アイシン) ② | 桜木 ジェイアール(アイシン) ① | チャールズ・オパノン(トヨタ自動車)① | 高橋 マイケル (トヨタ自動車) ③ |
| 82 | 平成18年度2007年1月 | 桜井 良太(トヨタ自動車) ① | 柏木 真介(アイシン) ① | 川村 卓也(オーエスジー) ① | 竹内 譲次(東海大4年) ① |
| 81 | 平成17年度2006年1月 | 節政 貴弘(東芝) ① | 折腹 祐樹(東芝) ① | 鵜澤 潤(三菱電機) ① | 佐古 賢一(アイシン) ⑧ |
| 80 | 平成16年度2005年1月 | 佐古 賢一(アイシン) ⑦ | 後藤 正規(アイシン) ⑤ | マッカーサー エリック(アイシン) ③ | 網野 友雄(トヨタ自動車) ① |
| 79 | 平成15年度2004年1月 | 後藤 正規(アイシン) ④ | 佐古 賢一(アイシン) ⑥ | 外山 英明(アイシン) ① | 折茂 武彦(トヨタ自動車) ③ |
| 78 | 平成14年度2003年1月 | 後藤 正規(アイシン) ③ | マッカーサー エリック(アイシン) ② | 青野 文彦(松下電器) ① | 古田 悟(三菱電機) ③ |
| 77 | 平成13年度2002年1月 | 後藤 正規(アイシン精機) ② | マッカーサー エリック(アイシン精機)① | トム・クラインシュミット(ボッシュ) ① | 佐久本 智(いすゞ自動車) ① |
| 76 | 平成12年度2001年1月 | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ⑤ | ルシアス・デービス(いすゞ自動車) ③ | 北 卓也(東芝) ② | 後藤 正規(アイシン精機) ① |
| 75 | 平成11年度2000年1月 | 北 卓也(東芝) ① | ステーブ・パード(東芝) ① | 沖田 真(三菱電機) ① | 古田 悟(三菱電機) ② |
| 74 | 平成10年度1999年1月 | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ④ | ルシアス・デービス(いすゞ自動車) ② | ブライアン・ヘンドリック(いすゞ自動車) ① | 三宅 学(NKK) ① |
| 73 | 平成9年度1998年1月 | ルシアス・デービス(いすゞ自動車) ① | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ③ | 高橋 マイケル(いすゞ自動車) ② | ハワード・ライト(ジャパンエナジー) ① |
| 72 | 平成8年度1997年1月 | 天日 謙作(松下電器) ① | 比嘉 靖(松下電器) ① | 山崎 昭史(松下電器) ② | ラリー・ルイス(三菱電機) ① |
| 71 | 平成7年度1996年1月 | 高橋 マイケル(いすゞ自動車) ① | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ② | ダン・ピングムハイマー(いすゞ自動車) ① | トム・ホーバス(トヨタ自動車) ① |
| 70 | 平成6年度1995年1月 | 安田 邦春(松下電器) ① | 長谷川 誠(松下電器) ① | 山崎 昭史(松下電器) ① | 赤穂 真(住友金属) ① |
| 69 | 平成5年度1994年1月 | 鈴木 篤(いすゞ自動車) ① | リチャード・コーフィー(いすゞ自動車)① | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ① | レジナルド・ターナー(三井生命) ① |
| 68 | 平成4年度1993年1月 | 棟方 公寿(日鉱共石) ① | 安達 康(日鉱共石) ① | ケビン・ウォーカー(日鉱共石) ① | 佐藤 真一(住友金属) ① |

■ 年次記録

| 回 | 年 | 開催地 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 |
|-----|-------------------|-----|--------|----------|----------|---------|
| 100 | 令和6年度 2025年3月 | 東京 | 琉球 | A東京 | 広島 | 三遠 |
| 99 | 令和5年度 2024年3月 | 埼玉 | 千葉J | 琉球 | 宇都宮 | 川崎 |
| 98 | 令和4年度 2023年3月 | 東京 | 千葉J | 琉球 | 宇都宮 | 横浜BC |
| 97 | 令和元年度 2022年3月 | 埼玉 | 川崎 | 千葉J | 宇都宮 | 琉球 |
| 96 | 令和2年度 2021年3月 | 埼玉 | 川崎 | 宇都宮 | 三河 | A東京 |
| 95 | 令和元年度 2020年1月 | 埼玉 | SR渋谷 | 川崎 | 滋賀 | 宇都宮 |
| 94 | 平成30年度 2019年1月 | 埼玉 | 千葉J | 栃木 | 京都 | A東京 |
| 93 | 平成29年度 2018年1月 | 埼玉 | 千葉J | 三河 | 京都 | 川崎 |
| 92 | 平成28年度 2017年1月 | 東京 | 千葉J | 川崎 | 三河 | A東京 |
| 91 | 平成27年度 2016年1月 | 東京 | アイシン三河 | リンク栃木 | トヨタ東京 | 東芝神奈川 |
| 90 | 平成26年度 2015年1月 | 東京 | 日立東京 | 広島 | 東芝神奈川 | トヨタ東京 |
| 89 | 平成25年度 2014年1月 | 東京 | 東芝神奈川 | トヨタ東京 | 和歌山 | アイシン三河 |
| 88 | 平成24年度 2013年1月 | 東京 | パナソニック | アイシン | トヨタ自動車 | 三菱電機 |
| 87 | 平成23年度 2012年1月 | 東京 | トヨタ自動車 | アイシン | パナソニック | 日立 |
| 86 | 平成22年度 2011年1月 | 東京 | アイシン | パナソニック | 日立 | トヨタ自動車 |
| 85 | 平成21年度 2010年1月 | 東京 | アイシン | 日立 | パナソニック | レカムイ北海道 |
| 84 | 平成20年度 2009年1月 | 東京 | アイシン | 日立 | パナソニック | トヨタ自動車 |
| 83 | 平成19年度 2008年1月 | 東京 | アイシン | トヨタ自動車 | 日立 | 東芝 |
| 82 | 平成18年度 2007年1月 | 東京 | トヨタ自動車 | アイシン | オーエスジー | 東海大学 |
| 81 | 平成17年度 2006年1月 | 東京 | 東芝 | 三菱電機 | アイシン | トヨタ自動車 |
| 80 | 平成16年度 2005年1月 | 東京 | アイシン | トヨタ自動車 | 三菱電機 | 松下電器 |
| 79 | 平成15年度 2004年1月 | 東京 | アイシン | トヨタ自動車 | 東芝 | 松下電器 |
| 78 | 平成14年度 2003年1月 | 東京 | アイシン | 松下電器 | 三菱電機 | オーエスジー |
| 77 | 平成13年度 2002年1月 | 東京 | アイシン精機 | ポッシュ | 東芝 | いすゞ自動車 |
| 76 | 平成12年度 2001年1月 | 東京 | いすゞ自動車 | 東芝 | トヨタ自動車 | アイシン精機 |
| 75 | 平成11年度 2000年1月 | 東京 | 東芝 | 三菱電機 | アイシン精機 | 松下電器 |
| 74 | 平成10年度 1999年1月 | 東京 | いすゞ自動車 | NKK | 東芝 | 松下電器 |
| 73 | 平成9年度 1998年1月 | 東京 | いすゞ自動車 | ジャパンエナジー | 三菱電機 | NKK |
| 72 | 平成8年度 1997年1月 | 東京 | 松下電器 | 三菱電機 | 大和証券 | 三井生命 |
| 71 | 平成7年度 1996年1月 | 東京 | いすゞ自動車 | トヨタ自動車 | ジャパンエナジー | 三菱電機 |
| 70 | 平成6年度 1995年1月 | 千葉 | 松下電器 | 住友金属 | NKK | 三井生命 |
| 69 | 平成5年度 1994年1月 | 東京 | いすゞ自動車 | 三井生命 | 熊谷組 | 三菱電機 |
| 68 | 平成4年度 1993年1月 | 東京 | 日鉱共石 | 住友金属 | NKK | 熊谷組 |
| 67 | 平成3年度 1992年1月 | 東京 | 熊谷組 | アンフィニ東京 | 松下電器 | 三菱電機 |
| 66 | 平成2年度 1991年1月 | 東京 | 三菱電機 | 住友金属 | 日本鉱業 | NKK |
| 65 | 平成元年度 1990年1月 | 東京 | 三菱電機 | 日本鉱業 | いすゞ自動車 | 松下電器 |
| 64 | 昭和63年度 1989年1月 | 東京 | 日本鉱業 | 住友金属 | 松下電器 | 三井生命 |
| 63 | 昭和62年度 1988年1月 | 東京 | 松下電器 | 三菱電機 | 住友金属 | 日本鉱業 |
| 62 | 昭和61年度 1987年3月 | 東京 | 松下電器 | 三菱電機 | 住友金属 | 秋田いすゞ |
| 61 | 昭和60年度 1986年3月 | 東京 | 松下電器 | 秋田いすゞ | 三菱電機 | 日本体育大学 |
| 60 | 昭和59年度 1985年3月 | 東京 | 住友金属 | 松下電器 | 熊谷組 | 三菱電機 |
| 59 | 昭和58年度 1984年1月 | 東京 | 秋田いすゞ | 日本鉱業 | 松下電器 | 住友金属 |
| 58 | 昭和57年度 1983年1月 | 東京 | 松下電器 | 東芝 | 日本鉱業 | 住友金属 |
| 57 | 昭和56年度 1982年1月 | 東京 | 松下電器 | 日本鋼管 | 住友金属 | 東芝 |
| 56 | 昭和55年度 1981年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 松下電器 | 住友金属 | 日本鉱業 |
| 55 | 昭和54年度 1980年1月 | 東京 | 住友金属 | 日本鋼管 | 松下電器 | 日本鉱業 |
| 54 | 昭和53年度 1979年1月 | 東京 | 松下電器 | 住友金属 | 日本鋼管 | 大阪商業大学 |
| 53 | 昭和52年度 1978年1月 | 東京 | 住友金属 | 松下電器 | 日本鉱業 | 日本鋼管 |
| 52 | 昭和51年度 1977年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 日本鉱業 | 新日本製鐵 | 住友金属 |
| 51 | 昭和50年度 1976年1月 | 東京 | 松下電器 | 住友金属 | 日本鋼管 | 明治大学 |
| 50 | 昭和49年度 1975年1月 | 東京 | 明治大学 | 住友金属 | 日本鉱業 | 松下電器 |

| 回 | 年 | 開催地 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 |
|----|-----------------------|------|------------|---------|------------|------------|
| 49 | 昭和48年度 1974年1月 | 東京 | 住友金属 | 日本鋼管 | 松下電器 | 日本鉱業 |
| 48 | 昭和47年度 1973年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 住友金属 | 中央大学 | 明治大学 |
| 47 | 昭和46年度 1972年1月 | 東京 | 日本鉱業 | 日本鋼管 | 住友金属 | 松下電器 |
| 46 | 昭和45年度 1971年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 住友金属 | 松下電器 | 日本鉱業 |
| 45 | 昭和44年度 1970年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 日本鉱業 | 住友金属 | 日本体育大学 |
| 44 | 昭和43年度 1969年1月 | 東京 | 日本鉱業 | 日本鋼管 | 住友金属 | 中央大学 |
| 43 | 昭和42年度 1968年1月 | 東京 | 日本鉱業 | 住友金属 | 日本鋼管 | 八幡製鐵 |
| 42 | 昭和41年度 1967年1月 | 東京 | 日本鉱業 | 日本鋼管 | 日本大学 | 早稲田大学 |
| 41 | 昭和40年度 1966年1月 | 東京 | 日本鉱業 | 日本大学 | 日本体育大学 | 松下電器 |
| 40 | 昭和39年度 1965年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 明治大学 | 日本鉱業 | 立教大学 |
| 39 | 昭和38年度 1964年1月 | 東京 | 日本鉱業 | 明治大学 | 日本大学 | 八幡製鐵 |
| 38 | 昭和37年度 1963年1月 | 東京 | 立教大学 | 日本鉱業 | 慶應義塾大学 | 日本鋼管OB |
| 37 | 昭和36年度 1962年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 日本鉱業 | 松下電器 | 慶應義塾大学 |
| 36 | 昭和35年度 1961年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 明治大学 | 日本鉱業 | 八幡製鐵 |
| 35 | 昭和34年度 1960年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 三井生命 | 東京教育大学 | 松下電器 |
| 34 | 昭和33年度 1959年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 立教大学 | 東京教育大学 | 慶應義塾大学 |
| 33 | 昭和32年度 1958年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 東京教育大学 | 日本鉱業 | 八幡製鐵 |
| 32 | 昭和31年度 1957年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 三井生命 | 東京教育大学 | 日本大学 |
| 31 | 昭和30年度 1956年1月 | 東京 | 立教大学 | 日本鋼管 | 熊谷組 | 明治大学 |
| 30 | 昭和29年度 1955年1月 | 東京 | 東京教育大学 | 立教大学 | 明治大学 | 三井生命 |
| 29 | 昭和28年度 1954年1月 | 東京 | 立教大学 | 東京教育大学 | 三井生命 | 日本鋼管 |
| 28 | 昭和27年度 1953年1月 | 東京 | 立教大学 | 早稲田大学 | 慶應義塾大学 | 東京教育大学 |
| 27 | 昭和26年度 1952年1月 | 東京 | 慶應義塾大学 | 立教大学 | 早稲田大学 | 全北越商クラブ |
| 26 | 昭和25年度 1951年1月 | 神戸 | 日本鋼管 | 慶應義塾大学 | 立教大学 | 早稲田大学 |
| 25 | 昭和24年度 1950年1月 | 東京 | 日本鋼管 | 全文理大学 | シューティング | 神戸学士クラブ |
| 24 | 昭和23年度 1948年12月 | 新潟 | 神戸学士クラブ | 日本鉱業 | 一球会 | 神奈川Jクラブ |
| 23 | 昭和22年度 1947年12月 | 東京 | 神戸学士クラブ | 東京学士クラブ | 新潟クラブ | 東京文理大学 |
| 22 | 昭和21年度 1947年1月 | 東京 | 新潟クラブ | 東京帝国大学 | 鉄興社 | 学士クラブ |
| | 昭和18～20年度 1944～46年 | (中止) | | | | |
| 21 | 昭和17年度 1943年1月 | 東京 | 立教大学 | 新興製薬 | 京都帝国大学 | 学士倶楽部 |
| | 昭和16年度 1942年 | (中止) | | | | |
| 20 | 昭和15年度 1941年1月 | 東京 | 立教大学 | 全延禧専門 | 東京文理大学 | 京都帝国大学 |
| 19 | 昭和14年度 1940年1月 | 東京 | 全普成専門 | 東京文理大学 | 早稲田大学 | 京都帝国大学 |
| 18 | 昭和13年度 1938年9月 | 東京 | 普成専門 | 京都帝国大学 | 立教大学 | 駿台倶楽部 |
| 17 | 昭和12年度 1938年1月 | 東京 | 普成専門 | 全延禧専門 | 京都帝国大学 | 東京帝国大学 |
| 16 | 昭和11年度 1937年1月 | 東京 | 早稲田大学 | 京都帝国大学 | 全普成専門 | 明治大学 |
| 15 | 昭和10年度 1936年1月 | 東京 | 全延禧専門 | 京都帝国大学 | 立教大学 | 東京帝国大学 |
| 14 | 昭和9年度 1935年1月 | 東京 | 東京帝国大学 | 全成城 | 学士倶楽部 | 全延禧専門倶楽部 |
| 13 | 昭和8年度 1934年1月 | 東京 | 早稲田大学 | 成蹊高校 | 東京帝国大学 | 京都帝国大学 |
| 12 | 昭和7年度 1933年1月 | 東京 | 東京帝国大学 | 早稲田大学 | 新潟倶楽部 | 全普成専門 |
| 11 | 昭和6年度 1932年1月 | 東京 | 早稲田大学 | 立教大学 | 神戸外人 | 商大倶楽部 |
| 10 | 昭和5年度 1931年1月 | 東京 | 成蹊高校 | 早稲田大学 | 浦和中学校 | 京都帝国大学 |
| 9 | 昭和4年度 1929年4月 | 東京 | 東京商科大学 | 早稲田大学 | 石川師範 | 浦和中学校 |
| 8 | 昭和3年度 1928年6月 | 東京 | 早稲田大学 | 東京商科大学 | 長岡青年 | 広島高等師範 |
| 7 | 昭和2年度 1927年10月 | 東京 | 東京商科大学 | 関西学院高等部 | 京都YMCA | ファルコン |
| 6 | 大正15年 1926年4月 | 大阪 | 早大RDR | 立教大学 | 大阪GB | 東京商科大学 |
| 5 | 大正14年 1925年4月 | 東京 | 東京YMCA | 大阪YMCA | 名古屋YMCA | |
| 4 | 大正13年 1924年5月 | 東京他 | 立教大学 | 東京商科大学 | 大阪YMCA | |
| 3 | 大正12年 1923年2月 | 東京 | 東京YMCA | 大阪YMCA | 立教大学 | 神戸外人団 |
| 2 | 大正11年 1922年5月 | 東京 | 東京YMCA (A) | 東京外人 | 横浜YMCA | 東京YMCA (B) |
| 1 | 大正10年 1921年11月 | 東京 | 東京YMCA | 横浜YMCA | 東京YMCA英語学校 | 大阪YMCA |

B.LEAGUE 2024-25レギュラーシーズン MVP&ベスト5



D.J.・ニュービル
(宇都宮 #25)
MVP／2年連続2回目
ベスト5／2年連続2回目



比江島 慎
(宇都宮 #6)
2年連続4回目



デイビッド・ヌワバ
(三遠 #2)
初受賞



佐々木 隆成
(三遠 #24)
初受賞



ヴィック・ロー
(琉球 #4)
初受賞

東京運動記者クラブ バスケットボール分科会選出

| 年度／シーズン | 受賞者名(チーム名) ○内の数字は選出回数 ★=MVP | | | | |
|---------|-----------------------------|---------------------|-------------------|-----------------|--------------------|
| 2024-25 | D.J.・ニュービル(宇都宮)②／★② | 比江島 慎(宇都宮)④ | デイビッド・ヌワバ(三遠)① | 佐々木 隆成(三遠)① | ヴィック・ロー(琉球)① |
| 2023-24 | 比江島 慎(宇都宮)③ | D.J.・ニュービル(宇都宮)①／★① | 富樫勇樹(千葉J)⑧ | 河村勇輝(横浜BC)② | ペリン・ビュフォード(島根)② |
| 2022-23 | 富樫勇樹(千葉J)⑦ | 原修太(千葉J)① | クリストファー・スミス(千葉J)① | 河村勇輝(横浜BC)①／★① | ペリン・ビュフォード(島根)① |
| 2021-22 | 富樫勇樹(千葉J)⑥ | 藤井祐真(川崎)③／★① | ニック・ファジーカス(川崎)④ | 安藤哲哉(島根)① | ドウェイン・エバンス(琉球)① |
| 2020-21 | 富樫 勇樹(千葉J)⑤ | 藤井 祐真(川崎)② | ニック・ファジーカス(川崎)③ | ジュリアン・マブンガ(富山)① | 金丸 晃輔(三河)⑤／★① |
| 2019-20 | 田中 大貴(A東京)④／★① | 藤井 祐真(川崎)① | ライアン・ロシター(宇都宮)① | 富樫 勇樹(千葉J)④ | 金丸 晃輔(三河)④ |
| 2018-19 | 遠藤 祐亮(栃木)① | 富樫 勇樹(千葉J)③／★① | 田中 大貴(A東京)③ | ダバンテ・ガードナー(新潟)① | 金丸 晃輔(三河)③ |
| 2017-18 | 富樫 勇樹(千葉J)② | 田中 大貴(A東京)② | 比江島 慎(三河)②／★① | 金丸 晃輔(三河)② | ニック・ファジーカス(川崎)② |
| 2016-17 | 富樫 勇樹(千葉J)① | 田中 大貴(A東京)① | 比江島 慎(三河)① | 金丸 晃輔(三河)① | ニック・ファジーカス(川崎)①／★① |

年間ベスト5

東京運動記者クラブ バasketボール分科会選出

| 年度／シーズン | 受賞者名(チーム名) ○内の数字は選出回数 ★=MVP | | | | |
|---------------|-----------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|------------------------|
| 平成28年度2017年6月 | 田臥 勇太(栃木)⑥ | 古川 孝敏(栃木)① | 篠山 竜青(川崎)① | 富樫 勇樹(千葉J)② | 田中 大貴(A東京)③ |
| 平成27年度2016年6月 | 辻 直人(東芝神奈川)③ | ニック・ファジーカス(東芝神奈川)② | 比江島 慎(アイシン三河)① | 田中 大貴(トヨタ東京)② | 田臥 勇太(リンク栃木)⑤ |
| 平成26年度2015年6月 | 金丸 晃輔(アイシン三河)② | 桜木 ジェイアール(アイシン三河)⑧ | 田中 大貴(トヨタ東京)① | 竹内 譲次(日立東京)③ | 田臥 勇太(リンク栃木)④ |
| 平成25年度2014年5月 | 辻 直人(東芝神奈川)② | ニック・ファジーカス(東芝神奈川)① | 川村 卓也(和歌山)② | 田臥 勇太(リンク栃木)③ | 富樫 勇樹(bj 秋田)① |
| 平成24年度2013年6月 | 柏木 真介(アイシン)④ | 桜木 ジェイアール(アイシン)⑦ | 辻 直人(東芝)① | 竹内 公輔(トヨタ自動車)⑥ | 金丸 晃輔(パナソニック)① |
| 平成23年度2012年4月 | ジェフ・ギブズ(トヨタ自動車)① | 正中 岳城(トヨタ自動車)① | 岡田 優介(トヨタ自動車)① | 柏木 真介(アイシン)③ | 桜木 ジェイアール(アイシン)⑥ |
| 平成22年度2011年6月 | 田臥 勇太(リンク栃木)② | 木下 博之(パナソニック)① | 石崎 巧(島根)① | 竹内 公輔(アイシン)⑤ | 青野 文彦(パナソニック)① |
| 平成21年度2010年4月 | 田臥 勇太(リンク栃木) ① | 川村 卓也(リンク栃木) ① | 田中 健(リンク栃木) ① | 竹内 公輔(アイシン) ④ | 桜木 ジェイアール(アイシン) ⑤ |
| 平成20年度2009年3月 | 柏木 真介(アイシン) ② | 竹内 公輔(アイシン) ③ | 桜木 ジェイアール(アイシン) ④ | 竹内 譲次(日立) ② | 菅 裕一(日立) ① |
| 平成19年度2008年3月 | 柏木 真介(アイシン) ① | 竹内 公輔(アイシン) ② | 桜木 ジェイアール(アイシン) ③ | チャールズ・オパノン(トヨタ自動車) ② | マーキース・エスティル(オーエスジー) ① |
| 平成18年度2007年3月 | 五十嵐 圭(日立) ② | 竹内 公輔(慶應義塾大4年) ① | 竹内 譲次(東海大4年) ① | 古田 悟(トヨタ自動車) ② | ジェラルド・ハニーカット(三菱電機) ② |
| 平成17年度2006年3月 | 渡邊 拓馬(トヨタ自動車) ① | ドロン・パーキンス(トヨタ自動車) ① | ジェラルド・ハニーカット(オーエスジー) ① | 節政 貴弘(東芝) ③ | 五十嵐 圭(日立) ① |
| 平成16年度2005年3月 | 節政 貴弘(東芝) ② | 北 卓也(東芝) ③ | 後藤 正規(アイシン) ⑤ | トム・クラインシュミット(東芝) ② | ジェイアール・ヘンダーソン(アイシン) ② |
| 平成15年度2004年3月 | 佐古 賢一(アイシン) ⑨ | 後藤 正規(アイシン) ④ | 折茂 武彦(トヨタ自動車) ⑥ | 高橋 マイケル(新潟) ⑤ | ジェイアール・ヘンダーソン(アイシン) ① |
| 平成14年度2003年3月 | 佐古 賢一(アイシン) ⑧ | 後藤 正規(アイシン) ③ | 折茂 武彦(トヨタ自動車) ⑤ | 外山 英明(アイシン) ③ | デビッド・ブース(松下電器) ① |
| 平成13年度2002年3月 | 棟方 公寿(トヨタ自動車) ② | チャールズ・オパノン(トヨタ自動車) ① | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ⑦ | 後藤 正規(アイシン精機) ② | トム・クラインシュミット(ボッシュ) ① |
| 平成12年度2001年3月 | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ⑥ | 折茂 武彦(トヨタ自動車) ④ | 後藤 正規(アイシン精機) ① | ルシアス・デービス(いすゞ自動車) ③ | ブライアン・ヘンドリック(トヨタ自動車) ① |
| 平成11年度2000年3月 | 北 卓也(東芝) ② | 節政 貴弘(東芝) ① | ステーブ・バード(東芝) ③ | 高橋 マイケル(いすゞ自動車) ④ | 折茂 武彦(トヨタ自動車) ③ |
| 平成10年度1999年3月 | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ⑤ | 高橋 マイケル(いすゞ自動車) ③ | ルシアス・デービス(いすゞ自動車) ② | 北 卓也(東芝) ① | ステーブ・バード(東芝) ② |
| 平成9年度1998年3月 | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ④ | 高橋 マイケル(いすゞ自動車) ② | 折茂 武彦(トヨタ自動車) ② | ルシアス・デービス(いすゞ自動車) ① | ステーブ・バード(東芝) ① |
| 平成8年度1997年3月 | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ③ | 山崎 昭史(松下電器) ② | ケニー・ウオーカー(いすゞ自動車) ① | 折茂 武彦(トヨタ自動車) ① | トム・ホーバス(トヨタ自動車) ② |
| 平成7年度1996年3月 | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ② | 長谷川 誠(松下電器) ② | 高橋 マイケル(いすゞ自動車) ① | 古田 悟(三菱電機) ① | トム・ホーバス(トヨタ自動車) ① |
| 平成6年度1995年3月 | 長谷川 誠(松下電器) ① | 山崎 昭史(松下電器) ① | 佐古 賢一(いすゞ自動車) ① | 安達 康(ジャパンエナジー) ① | 阿部 理(NKK) ① |
| 平成5年度1994年3月 | 鈴木 篤(いすゞ自動車) ① | 後藤 敏博(熊谷組) ② | エリック・マッカーサー(NKK) ① | 宮田 幸典(三井生命) ① | 陸川 章(NKK) ④ |
| 平成4年度1993年3月 | 外山 英明(熊谷組) ② | 棟方 公寿(日鉱共石) ① | 陸川 章(NKK) ③ | 池内 泰明(住友金属) ⑦ | モーゼス・スカーリー(熊谷組) ② |
| 平成3年度1992年1月 | モーゼス・スカーリー(熊谷組) ① | 外山 英明(熊谷組) ① | 陸川 章(NKK) ② | 辻村 浩(三菱電機) ② | 武田 恵(アンフィニ東京) ① |
| 平成2年度1991年1月 | ジェームス・ウィルクス(三菱電機) ③ | 陸川 章(NKK) ① | 池内 泰明(住友金属) ⑥ | 後藤 敏博(熊谷組) ① | 村田 健一(三菱電機) ② |
| 平成元年度1990年1月 | 村田 健一(三菱電機) ① | 辻村 浩(三菱電機) ① | ジェームス・ウィルクス(三菱電機) ② | クレアランス・マーチン(松下電器) ② | 池内 泰明(住友金属) ⑤ |
| 昭和63年度1989年1月 | 中島 康行(松下電器) ③ | 池内 泰明(住友金属) ④ | 大野 和也(日本鉱業) ① | デール・ウィルキンソン(日本鉱業) ① | クレアランス・マーチン(松下電器) ① |
| 昭和62年度1988年1月 | 北原 憲彦(日本鋼管) ⑩ | 三神 雅明(松下電器) ⑤ | ジェームス・ウィルクス(三菱電機) ① | 池内 泰明(住友金属) ③ | 内海 知秀(日本鉱業) ① |
| 昭和61年度1987年3月 | 三神 雅明(松下電器) ④ | ラリー・ジョンソン(松下電器) ⑧ | 山下 雄樹(三菱電機) ① | 小野 秀二(住友金属) ① | 中島 康行(松下電器) ② |
| 昭和60年度1986年3月 | 三神 雅明(松下電器) ③ | ラリー・ジョンソン(松下電器) ⑦ | テッド・ヤング(いすゞ自動車) ① | 岡山 恭崇(住友金属) ⑦ | 池内 泰明(住友金属) ② |
| 昭和59年度1985年3月 | 三神 雅明(松下電器) ② | 岡山 恭崇(住友金属) ⑥ | 池内 泰明(住友金属) ① | ラリー・ジョンソン(松下電器) ⑥ | 北原 憲彦(日本鋼管) ⑨ |
| 昭和58年度1984年1月 | ジャック・ギブンス(いすゞ自動車) ① | ラリー・ジョンソン(松下電器) ⑤ | 岡山 恭崇(住友金属) ⑤ | 北原 憲彦(日本鋼管) ⑧ | フレッド・カウワン(東芝) ② |
| 昭和57年度1983年1月 | 三神 雅明(松下電器) ① | ラリー・ジョンソン(松下電器) ④ | フレッド・カウワン(東芝) ① | 岡山 恭崇(住友金属) ④ | 北原 憲彦(日本鋼管) ⑦ |
| 昭和56年度1982年1月 | ラリー・ジョンソン(松下電器) ③ | 北原 憲彦(日本鋼管) ⑥ | 岡山 恭崇(住友金属) ③ | 沼田 宏文(松下電器) ⑤ | 中島 康行(松下電器) ① |
| 昭和55年度1981年1月 | ラリー・ジョンソン(松下電器) ② | 北原 憲彦(日本鋼管) ⑤ | 岡山 恭崇(住友金属) ② | 山本 浩二(日本鋼管) ⑤ | 沼田 宏文(松下電器) ④ |
| 昭和54年度1980年1月 | 結城 昭二(住友金属) ③ | 岡山 恭崇(住友金属) ① | 北原 憲彦(日本鋼管) ④ | 桑田 健秀(日本鋼管) ② | ラリー・ジョンソン(松下電器) ① |
| 昭和53年度1979年1月 | 沼田 宏文(松下電器) ③ | ジェローム・フリーマン(松下電器) ③ | 北原 憲彦(日本鋼管) ③ | 山本 浩二(日本鋼管) ④ | 結城 昭二(住友金属) ② |
| 昭和52年度1978年1月 | 森 哲(住友金属) ② | 杉友 厚(住友金属) ③ | 結城 昭二(住友金属) ① | 山本 浩二(日本鋼管) ③ | 青木 崇(日本鉱業) ① |
| 昭和51年度1977年1月 | 阿部 成章(日本鉱業) ⑦ | 谷口 正朋(日本鋼管) ⑥ | ジェローム・フリーマン(松下電器) ② | 沼田 宏文(松下電器) ② | 桑田 健秀(日本鋼管) ① |
| 昭和50年度1976年1月 | ジェローム・フリーマン(松下電器) ① | 北原 憲彦(明治大4年) ② | 沼田 宏文(松下電器) ① | 阿部 成章(日本鉱業) ⑥ | 千種 信雄(住友金属) ① |
| 昭和49年度1975年1月 | 山本 浩二(明治大4年) ② | 北原 憲彦(明治大3年) ① | 森 哲(住友金属) ① | 杉友 厚(住友金属) ② | 阿部 成章(日本鉱業) ⑤ |
| 昭和48年度1974年1月 | 横山 邦彦(住友金属) ② | 吉川 峰夫(住友金属) ① | 杉友 厚(住友金属) ① | 谷口 正朋(日本鋼管) ⑤ | 阿部 成章(日本鉱業) ④ |
| 昭和47年度1973年1月 | 谷口 正朋(日本鋼管) ④ | 服部 信雄(日本鋼管) ① | 阿部 成章(日本鉱業) ③ | 小玉 晃(日本鉱業) ① | 山本 浩二(明治大2年) ① |
| 昭和45年度1971年1月 | 諸山 文彦(日本鋼管) ③ | 谷口 正朋(日本鋼管) ③ | 阿部 成章(日本鉱業) ② | 横山 邦彦(住友金属) ① | 木村 勲(日本鋼管) ① |
| 昭和44年度1970年1月 | 谷口 正朋(日本鋼管) ② | 阿部 成章(日本体育大4年) ① | 諸山 文彦(日本鋼管) ② | 江川 嘉孝(八幡製鐵) ② | 五十嵐 清次(日本鋼管) ② |
| 昭和43年度1969年1月 | 諸山 文彦(日本鋼管) ① | 五十嵐 清次(日本鋼管) ① | 谷口 正朋(日本鋼管) ① | 宗田 研二(中央大3年) ① | 小宮 宗勝(住友金属) ① |
| 昭和42年度1968年1月 | 児玉 敏(日本鉱業) ① | 江川 嘉孝(八幡製鐵) ① | 増田 貴史(住友金属) ① | 中村 邦彦(日本鉱業) ① | 角田 勝次(日本鉱業) ① |

FIBAアジアカップ2025

2025年8月5日～17日／サウジアラビア・ジッダ

新たな挑戦の門出は
試練の9位フィニッシュ



■ スタッフ

| 役職 | 名前 | 所属 |
|-----------------|----------|-------------|
| ヘッドコーチ | トム・ホーバス | JBA |
| アシスタントコーチ | 勝久 ジェフリー | 川崎ブレブサンダース |
| アシスタントコーチ | 佐々 宣央 | 琉球ゴールデンキングス |
| アシスタントコーチ | 富山 晋司 | JBA |
| スポーツパフォーマンスコーチ | 佐藤 晃一 | JBA |
| スポーツパフォーマンスコーチ | 緒方 博紀 | JBA |
| アスレティックトレーナー | 一柳 武男 | JBA |
| アスレティックトレーナー | 古澤 美香 | JBA |
| チームドクター | 武田 秀樹 | NTT東日本関東病院 |
| テクニカルスタッフ | 磯野 眞 | 長崎ヴェルカ |
| チームマネージャー | 西村 拓也 | JBA |
| アシスタントチームマネージャー | 大木 瀬音 | JBA |
| サポートスタッフ | 保田 延彦 | JBA |

アメリカを拠点にしている八村塁、河村勇輝、そしてコンディショニングを優先させて代表合流を回避した元NBAの渡邊雄太を欠くロスターでアジアカップに臨んだ日本。ジョシュ・ホーキンソンが平均17.0得点に大会全体2位の11.8リバウンドと大黒柱らしい活躍でチームをけん引し、金近廉やジャン・ローレンス・ハーパージュニア若手のはつらつとしたプレーも見られたものの、グループフェーズでイランとの接戦に勝ち切れなかったことが響き、望むべき結果を得られず大会を終えた。

ベスト8入りが懸かったレバノン戦では、重くのしかかるプレッシャーに押しつぶされるかのように24点差の大敗。悔しさとともに蓄積された経験を今後の糧としたい。

| 最終順位 | 試合結果 | |
|-------------|----------------------------|-------------|
| 1位 オーストラリア | グループフェーズ(グループB) | |
| 2位 中国 | 8月6日 | 日本99-68シリア |
| 3位 イラン | 8月8日 | イラン78-70日本 |
| 4位 ニュージーランド | 8月10日 | グアム63-102日本 |
| 9位 日本 | 日本は2勝1敗のグループB2位で準々決勝進出決定戦へ | |
| | 8月13日 | 日本73-97レバノン |

■ 選手

| # | 名前 | P | 身長/体重 | 年齢 | 所属 |
|----|--------------------|------|---------|-----|------------|
| 2 | 富樫 勇樹 | PG | 167/65 | 31歳 | 千葉ジェッツ |
| 4 | ジェイコブス 晶 | SF | 203/104 | 21歳 | フォーダム大 |
| 7 | テプス 海 | PG | 188/88 | 26歳 | アルバルク東京 |
| 13 | 金近 廉 | SF | 196/98 | 22歳 | 千葉ジェッツ |
| 14 | 狩野 富成 | C | 206/108 | 23歳 | サンロッカーズ渋谷 |
| 18 | 馬場 雄大 | SF | 196/95 | 29歳 | ー |
| 19 | 西田 優大 | SG | 190/90 | 26歳 | シーホース三河 |
| 23 | ジャン・ローレンス・ハーパージュニア | PG | 181/84 | 22歳 | サンロッカーズ渋谷 |
| 24 | ジョシュ・ホーキンソン | C/PF | 208/107 | 30歳 | サンロッカーズ渋谷 |
| 30 | 富永 啓生 | SG | 188/84 | 24歳 | レバンガ北海道 |
| 91 | 吉井 裕鷹 | SF | 196/98 | 27歳 | 三遠ネオフェニックス |
| 99 | 川真田 紘也 | C | 204/114 | 27歳 | 長崎ヴェルカ |

※年齢・所属は2025年7月27日現在

FIBAワールドカップ2027 アジア地区1次予選 Window1

2025年11月27日～12月1日／東京ほか

チャイニーズ・タイペイ相手に連勝。グループB首位に

■ スタッフ

| 役職 | 名前 | 所属 |
|------------------|-------------|----------------|
| チームダイレクター | 伊藤 拓摩 | JBA/長崎ヴェルカ |
| ヘッドコーチ | トム・ホーバス | JBA |
| アシスタントコーチ | 佐々 宣央 | 琉球ゴールデンキングス |
| アシスタントコーチ | 富山 晋司 | JBA |
| サポートコーチ | コーリー・ゲインズ | JBA |
| プレイヤーデベロップメントコーチ | ブライアン・フィンリー | JBA(初戦のみ登録) |
| スポーツパフォーマンスコーチ | 佐藤 晃一 | JBA |
| スポーツパフォーマンスコーチ | 緒方 博紀 | JBA |
| アスレティックトレーナー | 一柳 武男 | JBA |
| アスレティックトレーナー | 古澤 美香 | JBA |
| チームドクター | 武田 秀樹 | NTT東日本関東病院 |
| テクニカルスタッフ | 磯野 眞 | 長崎ヴェルカ(初戦のみ登録) |
| チームマネージャー | 西村 拓也 | JBA |
| アシスタントチームマネージャー | 大木 瀬音 | JBA |
| サポートスタッフ | 保田 延彦 | JBA |
| サポートスタッフ | 下條 海 | JBA(初戦のみ登録) |
| チーム広報 | 松本 麻里 | JBA |

■ 選手

| # | 名前 | P | 身長/体重 | 年齢 | 所属 |
|----|-------------|------|---------|-----|-----------------|
| 1 | 齋藤 拓実 | PG | 172/69 | 30歳 | 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ |
| 2 | 富樫 勇樹 | PG | 167/65 | 32歳 | 千葉ジェッツ |
| 3 | 安藤 哲哉 | PG | 181/81 | 33歳 | 横浜ビー・コルセアーズ |
| 12 | 渡邊 雄太 | SF | 206/98 | 31歳 | 千葉ジェッツ |
| 18 | 馬場 雄大 | SF | 196/91 | 30歳 | 長崎ヴェルカ |
| 19 | 西田 優大 | SG | 190/90 | 26歳 | シーホース三河 |
| 24 | ジョシュ・ホーキンソン | C/PF | 208/106 | 30歳 | サンロッカーズ渋谷 |
| 30 | 富永 啓生 | SG | 188/85 | 24歳 | レバンガ北海道 |
| 31 | 原 修太 | SG | 187/96 | 31歳 | 千葉ジェッツ |
| 34 | 渡邊 飛勇 | PF | 207/106 | 26歳 | 信州ブレブウォリアーズ |
| 91 | 吉井 裕鷹 | SF | 196/94 | 27歳 | 三遠ネオフェニックス |
| 99 | 川真田 紘也 | C | 204/117 | 27歳 | 長崎ヴェルカ |

※年齢・所属は2025年11月27日現在

ポジション(P)表記： PG＝ポイントガード、SG＝シューティングガード、SF＝スモールフォワード、PF＝パワーフォワード、C＝センター ※身長はcm、体重はkg単位

中国、韓国、チャイニーズ・タイペイという東アジアのライバルと同組のワールドカップアジア地区1次予選は、日本にとって一つも落とすことなく勝ち上がりたいラウンドだ。チャイニーズ・タイペイとホーム&アウェイで戦うWindow1に、日本は夏場のアジアカップ出場を回避してコンディションを整えてきた渡邊雄太をキャプテンとするロスターで臨んだ。渡邊はその2試合で平均17.0得点、7.0リバウンド、3.0アシストに2.5ブロックと攻防両面で存在感を示し、みごとチームを2連勝に導いた。

現在日本は、中国に連勝した韓国と同勝率ながら得失点差でグループBの首位。2月末から3月にかけて沖縄サントリーアリーナで開催されるWindow2に向け、好スタートを切ることができた。

| グループB順位 | 試合結果 | |
|--------------------|-----------------|--------------------|
| ※12月1日現在 | グループフェーズ(グループB) | |
| 1位 日本(2勝) | 11月28日 | 日本90-64チャイニーズ・タイペイ |
| 2位 韓国(2勝) | 12月1日 | チャイニーズ・タイペイ73-80日本 |
| 3位 中国(2敗) | | |
| 4位 チャイニーズ・タイペイ(2敗) | | |



FIBA 3x3 アジアカップ2025

2025年3月26日～30日／シンガポール

小澤峻の爆発的得点力を軸に
4強入りを果たす

日本はイランとのグループフェーズ初戦で、小澤峻の一人で20得点を挙げる驚異のパフォーマンスに導かれノックアウト勝ち。すると続くオーストラリア戦、準々決勝のシンガポールも連続ノックアウト勝ちでベスト4に駒を進めた。

| 最終順位 | 試合結果 | |
|-------------|-------------------|-----------------------|
| 1位 オーストラリア | グループフェーズ(プールC) | |
| 2位 中国 | 3月29日 | 日本21-17イラン |
| 3位 ニュージーランド | | 日本21-16オーストラリア |
| 4位 日本 | 日本は2勝のプール1位で準々決勝へ | |
| | 3月30日 | 準々決勝 日本21-17シンガポール |
| | | 準決勝 中国19-15日本 |
| | | 3位決定戦 ニュージーランド21-18日本 |

FIBA 3x3 ワールドカップ2025

2025年6月23日～29日／モンゴル・ウランバートル

8強入りならずも予選プールで2勝

アジアカップで神がかり的なシュート力を世界に示した小澤峻をオフェンスの軸に、そのときと同じメンバーで上位進出を目指した日本。グループフェーズでモンテネグロとモンゴルから勝利を挙げ、8強入りを決めるプレーインの舞台まで駒を進められたのは収穫だった。

チームとしての進撃はそこまでとなったが、小澤が今大会でも力強いパフォーマンスを維持して大会全体1位の平均11.5得点を記録するなど、世界で戦えるポテンシャルを感じさせた。

FIBA U16アジアカップ2025

2025年8月31日～9月7日／モンゴル・ウランバートル

メダルに1点届かず

日本はグループフェーズから準々決勝まで4連勝して4強入りを決めた。しかし準決勝でオーストラリアに完敗を喫し、翌日ニュージーランドとの3位決定戦は疲れもあってか92-93とわずかに1点届かず。メダルは惜しくも逃した。

| 最終順位 | 試合結果 | |
|-------------|---------------------|-------------------------|
| 1位 オーストラリア | グループフェーズ(プールD) | |
| 2位 中国 | 8月31日 | 日本107-51カザフスタン |
| 3位 ニュージーランド | 9月1日 | サウジアラビア58-78日本 |
| 4位 日本 | 9月2日 | イラン67-86日本 |
| | 日本は3勝のグループD1位で準々決勝へ | |
| | 9月5日 | 準々決勝 日本83-72チャイニーズ・タイペイ |
| | 9月6日 | 準決勝 オーストラリア101-36日本 |
| | 9月7日 | 3位決定戦 日本92-93ニュージーランド |



■ スタッフ

| 役職 | 名前 | 所属 | 備考 |
|--------------|-----------|--------------------------|-------|
| ヘッドコーチ | 中祖 嘉人 | 一般社団法人アルボラーダ | AC、WC |
| コーチ | 鈴木 慶太 | 株式会社アウトナンバー / TOKYO DIME | WC |
| サポートコーチ | 齊藤 洋介 | UTSUNOMIYA BEX.EXE | WC |
| アスレティックトレーナー | 岡本 香織 | JBA | AC、WC |
| アスレティックトレーナー | 村木 亮子 | JIN整形外科スポーツクリニック | AC、WC |
| チームマネージャー | 稲葉 一政 | JBA | AC、WC |
| サポートスタッフ | 佐藤 博翔 | 桐蔭横浜大学 | AC |
| サポートスタッフ | 仲上 真央 | 早稲田大学 | AC、WC |
| サポートスタッフ | エルマコーラ 未亜 | 日本体育大学 | AC |
| サポートスタッフ | 川崎 碧斗 | 中京大学 | WC |
| サポートスタッフ | 伊地知 さら | 日本体育大学 | WC |

※AC＝アジアカップでの登録 / WC＝ワールドカップでの登録

■ 選手

| # | 名前 | 身長 | 年齢 | 所属 |
|----|-------|-----|-----|------------------------------------|
| 13 | 小澤 峻 | 177 | 26歳 | SHINAGAWA CITY 3×3 BASKETBALL CLUB |
| 24 | 仲西 佑起 | 191 | 32歳 | UTSUNOMIYA BEX |
| 7 | 出羽 綾一 | 190 | 32歳 | SHINAGAWACC WILDCATS |
| 15 | 井後 健矢 | 198 | 30歳 | SAGAMIHARA PROCESS / HIU ZEROCKETS |

※年齢・所属は2025年6月11日現在(アジアカップ時の小澤はALPHASに所属)



| 最終順位 | 試合結果 | |
|---------|----------------------------------|---------------------|
| 1位 スペイン | グループフェーズ(プールB) | |
| 2位 スイス | 6月23日 | アメリカ21-14日本 |
| 3位 セルビア | | 日本21-15モンテネグロ |
| 4位 ドイツ | 6月25日 | ラトビア21-14日本 |
| 12位 日本 | | モンゴル20-21日本 |
| | 日本は2勝2敗のプールB3位でプレーイン(準々決勝進出決定戦)へ | |
| | 6月27日 | プレーイン プエルトリコ22-14日本 |

FIBA 3x3 ユース・ネーションズリーグ 2025 -U21

2025年6月9～15日／中国・孝感

健闘の総合2位

アジア・パシフィックの6チームで、「ストップ」と称する1デートーナメントを7日間で6回行い、U23ワールドカップへの出場権を獲得できる総合1位の座を争うこの大会で、日本は惜しくも総合2位。6ストップ中2ストップで優勝してただけに惜しい結果だが、各国との交流の中で貴重な国際経験を積むことはできた。

| 最終順位 | |
|-----------|----------|
| 1位 | ニュージーランド |
| 2位 | 日本 |
| 3位 | モンゴル |
| 4位 | 中国 |
| ストップごとの順位 | |
| ストップ1 | 3位 |
| ストップ2 | 1位 |
| ストップ3 | 4位 |
| ストップ4 | 1位 |
| ストップ5 | 6位 |
| ストップ6 | 2位 |

FIBA 3x3 ユース・ネーションズリーグ 2025 -アジア-

2025年8月11日～17日／中国・邯鄲

U23ワールドカップ出場はならず

6月に開催された「FIBA 3x3 ユース・ネーションズリーグ 2025 -U21-」と同じフォーマットで、アジアの6チームが「7日間で6ストップを戦い、U23ワールドカップへの出場権獲得を目指した。6ストップの成績が2位2回、4位2回、5位に2回と振るわなかった日本は、残念ながら世界への切符を手にすることはできなかった。

| 最終順位 | |
|-----------|------|
| 1位 | モンゴル |
| 2位 | イラン |
| 3位 | 中国 |
| 4位 | 日本 |
| ストップごとの順位 | |
| ストップ1 | 5位 |
| ストップ2 | 5位 |
| ストップ3 | 2位 |
| ストップ4 | 4位 |
| ストップ5 | 2位 |
| ストップ6 | 4位 |

天皇杯

EMPEROR'S CUP
BASKETBALL 2025-26

第101回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会 —— ファイナルラウンド ——

大会概要

| | |
|-------|--|
| 主催 | 公益財団法人日本バスケットボール協会 |
| 共催 | 共同通信社 |
| 主管 | 公益財団法人日本バスケットボール協会 |
| 後援 | NHK |
| 協賛 | 三井不動産株式会社 ジョーダン ブランド 株式会社モルテン 三井住友信託銀行株式会社 ソフトバンク株式会社 |
| 日程 | 2025年1月6日(火)～12日(月・祝) ※9日(金)、11日(日)はレストデー |
| 会場 | 国立代々木競技場第一体育館・第二体育館 |
| 大会方式 | トーナメント戦によるノックアウト方式とする。 |
| 組み合わせ | 大会実施委員会の責任抽選にて、対戦を確定するものとする。 |
| 競技規則 | 開催時における最新のバスケットボール競技規則で実施する。 ※現状においては「2025バスケットボール競技規則 (Official Basketball Rules 2024)」を最新とする。 |

出場資格(チーム)

2025年度において当該都道府県の下記カテゴリー・チーム区分にチーム登録されているチーム(JBA登録区分に基づく)であること。

- ・一般(I種)カテゴリー
- ・U18カテゴリー

ファイナルラウンド出場チーム数

・ブロック代表枠

原則、当該年度の11月までにブロックラウンド(9ブロック)を開催し、各ブロック1枠ずつ

・社会人推薦枠

前シーズンの高松宮記念杯 全日本社会人バスケットボールプレミアムチャンピオンシップ最上位に1枠

・大学推薦枠

前年度の全日本大学バスケットボール選手権大会優勝チームが所属する地区の当該年度の選手権大会(春季大会)最上位に1枠

・トップリーグ推薦枠(Bリーグ、B3リーグ)

前シーズンの成績を基にB1: 8枠、B2: 4枠、B3: 1枠

参加資格

- 2025年度においてJBAに選手登録された選手であること。
- 外国人選手は、JBA基本規程第110条に基づいて登録された選手であること。
- 帰化選手は満16歳となった後に国籍法に基づく帰化によって日本国籍を取得した選手であること。

チーム編成

- チーム編成はスタッフ9名以内、選手16名以内の計25名以内とする。
- ベンチで指揮を執るコーチはJBAが定めるコーチライセンスの適用基準において必要な資格を保有していること。
- 選手は、大会申し込み時に選択(エントリー)したチームのみに出場できる。
※ファーストラウンド(都道府県ラウンド)で選手登録をしたチームでのみ出場ができる。
※ラウンド毎に選手登録するチームが変わることは不可とする。(同ラウンド中も変更は不可)
- Bリーグ・B3リーグにおける「アジア特別枠選手」は外国籍選手とする。
- Bリーグ・B3リーグにおける「特別指定選手」は、今年度の天皇杯(ファーストラウンド～ファイナルラウンドまで)で一度もエントリーされていない者だけが参加可能であるが、大会申し込み期限までにTeam JBAにて当該チームに選手登録されている(他連盟等での選手登録がない選手である)こと。
- 選手登録および大会エントリーができる外国籍選手数は、1チーム合計2名までとし、帰化選手は、外国籍選手とは別に1名まで選手登録できる。また、試合中同時にコート上でプレーできる外国籍選手数は、試合を通して1チーム合計1名までとする。帰化選手は、試合を通してコート上でプレーできる人数は1名までとし、常時、外国籍選手1名と同時にプレーすることができる。延長時間においても同様に扱う。

C O N T E N T S

- 3 ごあいさつ
- 5 天皇杯・皇后杯について
- 7 天皇杯2025-26 ファイナルラウンド展望
- 11 ファイナルラウンド 組み合わせ

+出場チーム紹介

- 12 群馬クレインサンダーズ
- 13 Camellia
- 14 リンタツ
- 15 富山グラウジーズ
- 16 クリッパークラブ
- 17 アルバルク東京
- 18 三遠ネオフェニックス
- 19 REBORN
- 20 日本体育大学
- 21 アルティール千葉
- 22 環太平洋大学
- 23 島根ササノオマジック
- 24 宇都宮ブレイクス
- 25 山形クベアラ
- 26 信州ブレイブウォリアーズ
- 27 JR東日本秋田PECKERS
- 28 白鷲大学
- 29 千葉ジェッツ
- 30 琉球ゴールデンキングス
- 31 日本経済大学
- 32 横浜エクセレンス
- 33 ライジングゼファーク福岡
- 34 ONELYS wakayama
- 35 シーホース三河

+大会記録

- 36 天皇杯 過去の大会記録
- 41 年次記録
- 44 AKATSUKI JAPAN 男子日本代表活動レポート

※本プログラムに掲載のBリーグの成績データは特別な記載のない場合、2025年12月14日時点のものとなります。

発行元 公益財団法人日本バスケットボール協会(JBA)
〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-27 後楽鹿島ビル6階
TEL(03)4415-2020
編集者 天皇杯・皇后杯 大会実施委員会
発行日 2025年1月6日
制作 月刊バスケットボール
デザイン 目録舎
写真 JBA / B.LEAGUE / 月刊バスケットボール

天皇杯 皇后杯

EMPEROR'S CUP AND EMPRESS'S CUP
BASKETBALL 2025-26

第101回天皇杯・第92回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会 オフィシャルグッズ

公式オンラインストアにて販売中!!



Tシャツ
¥3,900



ロングTシャツ
¥4,900



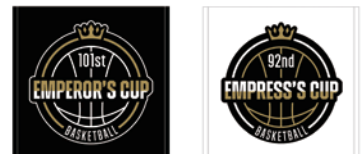
フーディ
¥6,900



マフラータオル
¥2,500



フェイスタオル
¥2,200



ハンドタオル
¥1,300



ベアキーチェーン
¥2,300



アクリルキーホルダー
¥800



エコバック
¥2,000



缶バッチ 2 個セット
¥900

店舗限定



おこげ煎餅入り巾着
¥1,300

店舗限定



プリントクッキー
¥1,200

オフィシャルグッズ
特設ページはこちら



JBA
JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

OFFICIAL STORE

A Fanatics Experience

環境を守る スポーツを守る 未来を守る TEAM JAPAN!

来たときよりもきれいに！



公益財団法人日本オリンピック委員会
Japanese Olympic Committee